

持続的な、
社会と世界を。

Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan

近畿農政局業務説明会

農林水産省 近畿農政局



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

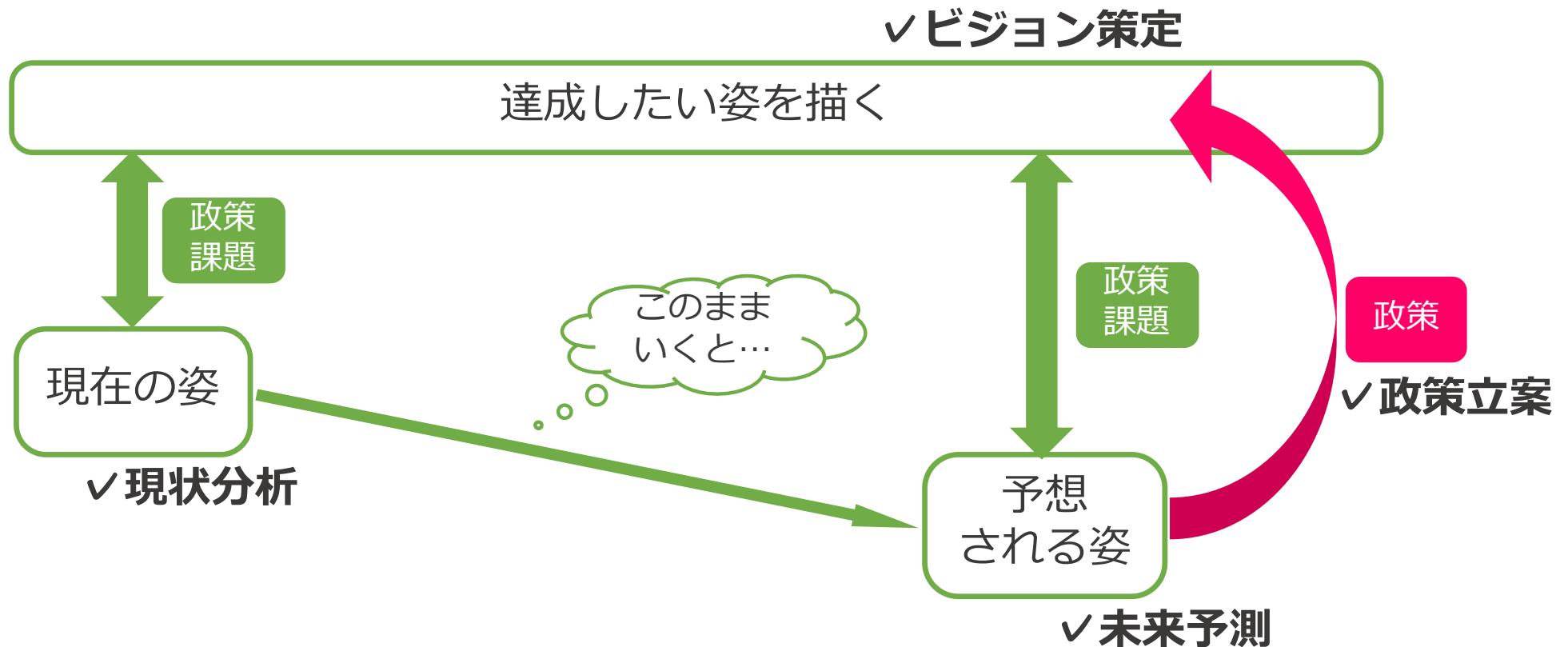
03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局選考採用職員紹介

国家公務員とは？



- 現状分析→ビジョン策定→政策課題の特定・未来予測→政策立案→合意形成→政策実施
- いわゆる「社会を良くするしごと」
ただし、地方自治体や民間企業も、社会を良くするために働いているのは同じ。
違いは、**1. 使えるツール（法律、予算、税制）**
2. 「日本全体」の利益を考える役割



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

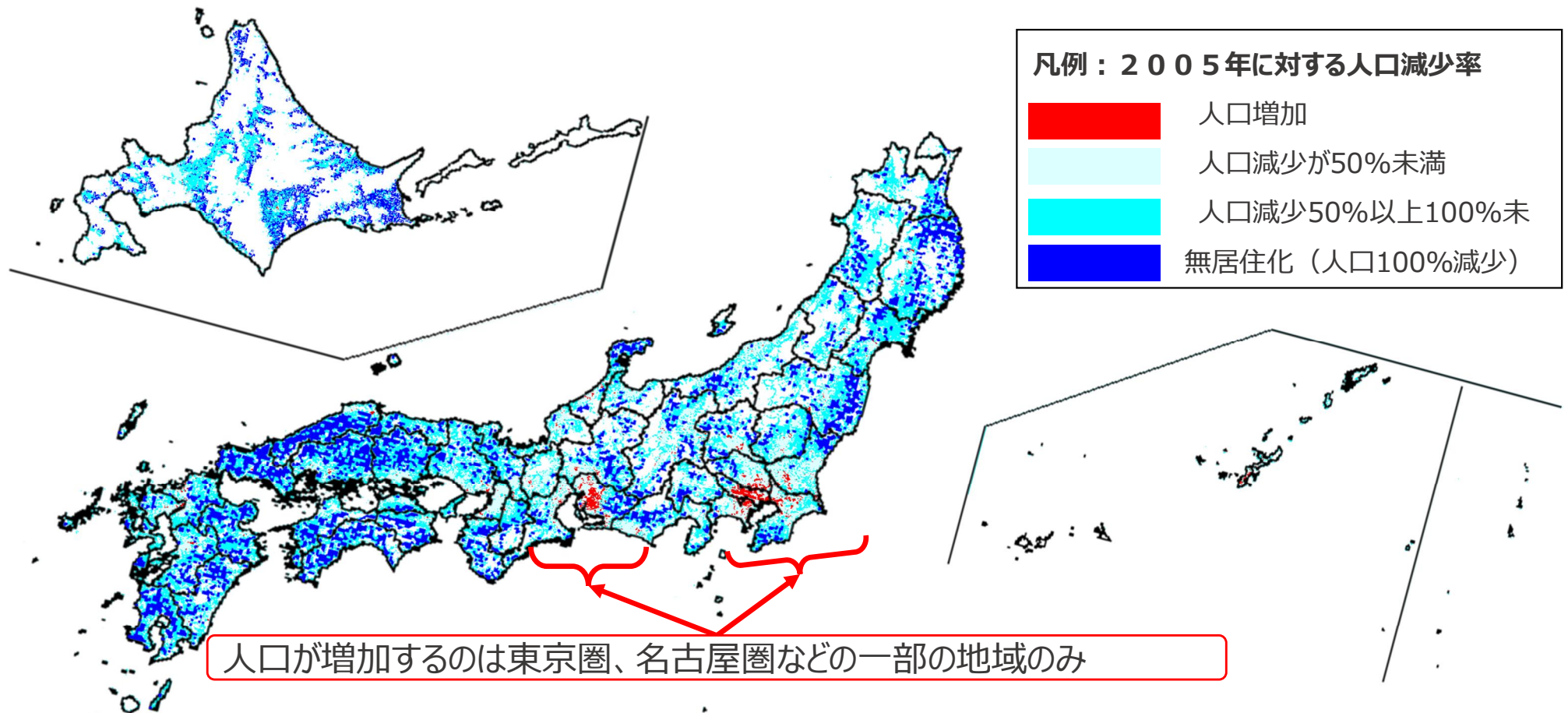
農林水産省の職場環境

04

近畿農政局選考採用職員紹介

日本の課題：人口減少と過疎化

**大都市における超低出生率・地方における都市への人口流出
+ 低出生率**が日本全体の人口減少につながっている。



資料： H23.2.21 国土審議会政策部会長期展望委員会資料より抜粋改変

・総務省「国勢調査報告」、国土交通省国土計画局推計値（メッシュ別将来人口）をもとに、コーホートを用い、出生と死亡にかかる「自然増減」及び転出入にかかる純移動の「人口変動要因」のそれぞれについて将来値を仮定し推計。

・2005年を100とした場合の2050年の人口割合を1km²区画でプロット（白色部分は1km²あたり人口がデータ上1人に満たない場合）。

人口減少・過疎化の何が問題なのか

人口減少、過疎化は地方だけではなく**日本全体の課題**

【GDP世界4位】

過疎化・人口減少の加速化による消費・経済力の低下
(日本の国際的プレゼンス低下)

(地方出身者) 自分が生まれ育った故郷がなくなる喪失感

食料供給機能の低下

※農業産出額のうち大都市近郊県（茨城・千葉・愛知）の割合は約13.7%

※平成29年度生産農業所得統計

ライフスタイルの制約
→暮らせる田舎、
観光資源の喪失

多面的機能の低下

※食料供給以外の多面にわたる機能（洪水・土砂崩れ防止などの国土保全機能）

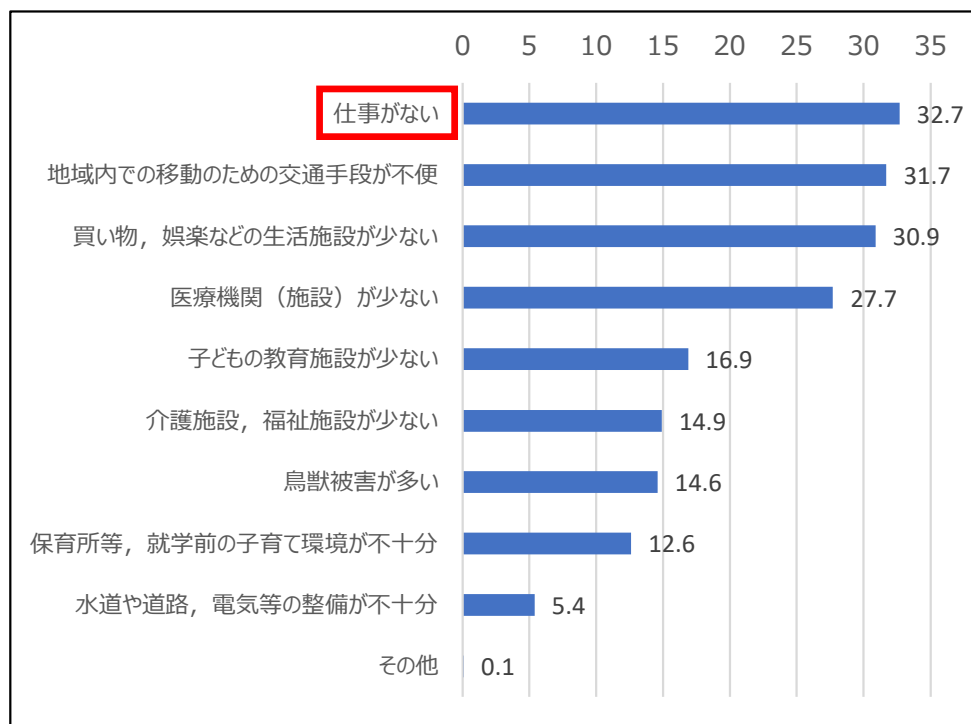
※農業・農村の多面的機能は貨幣価値で算出可能なものだけで年間約8兆円

多様な文化の喪失
歴史・自然環境をベースに築いてきた文化的多様性の喪失

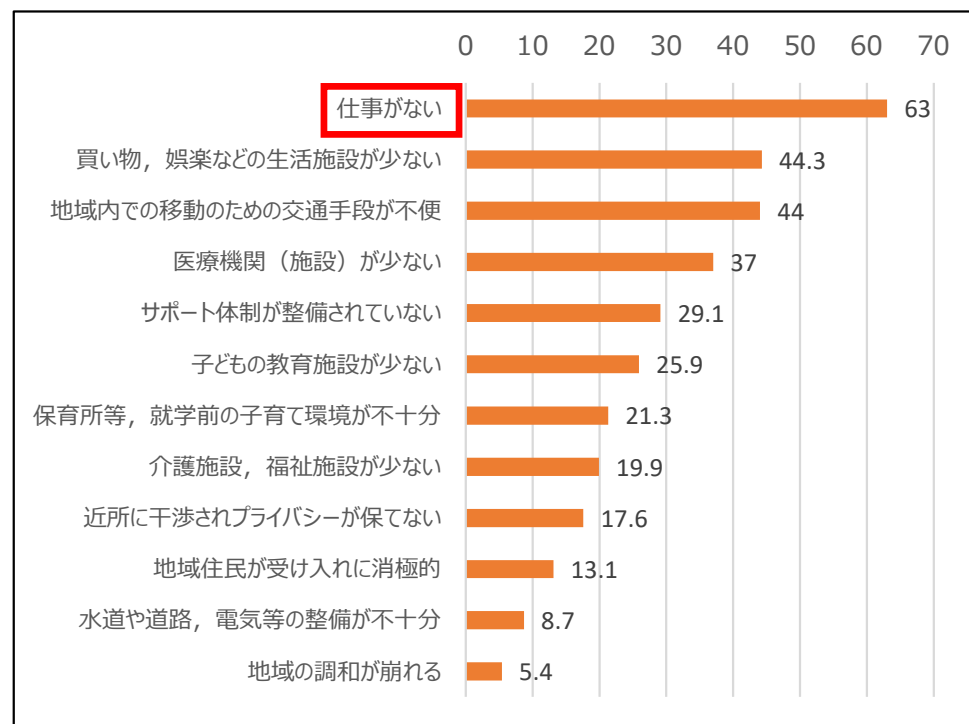
過疎化を食い止めるには

農山漁村地域での生活で困るのは「仕事がない」こと

（農山漁村地域住民に対し）農山漁村地域での生活で困っていることは何か。



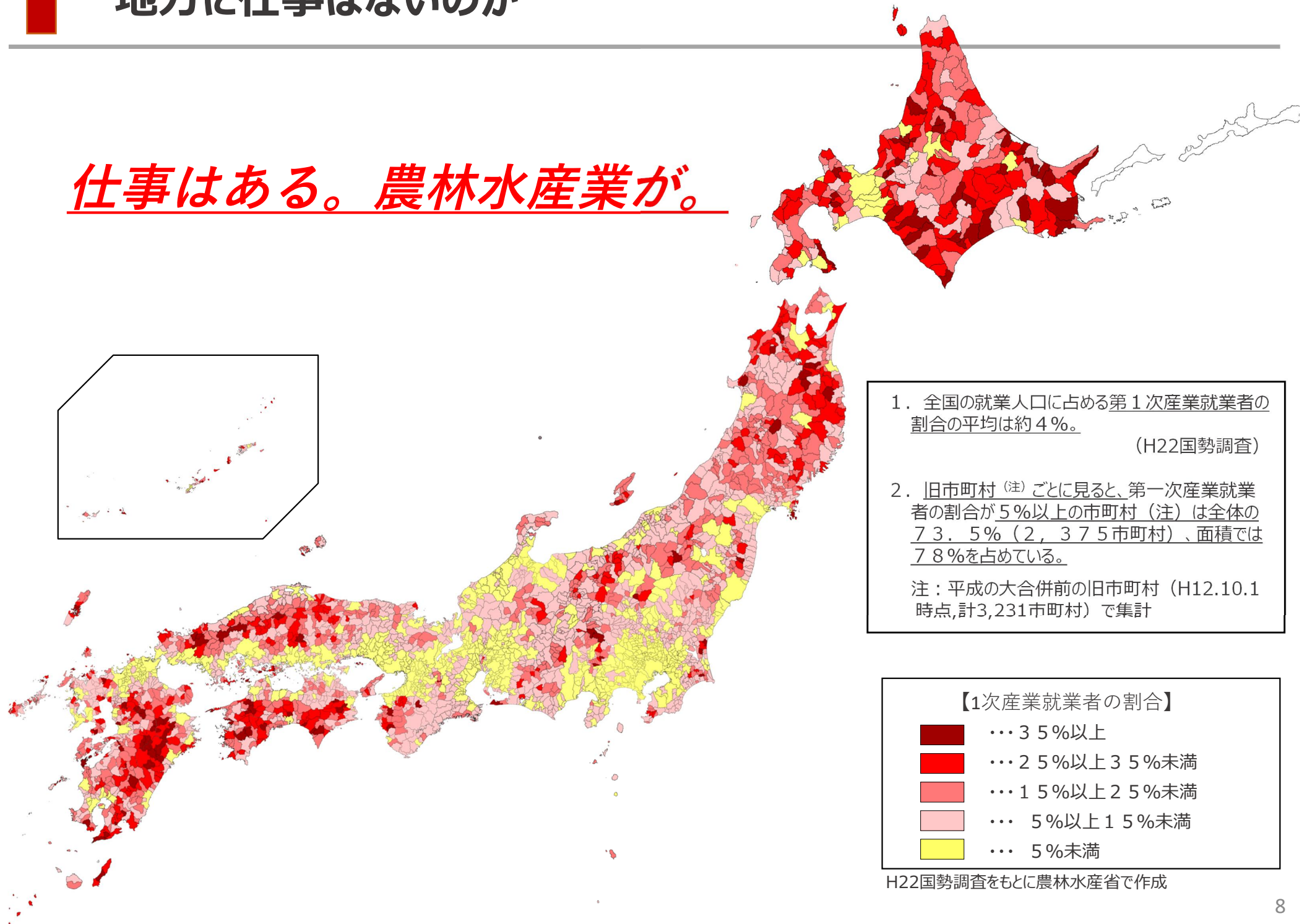
（農山漁村地域住民に対し）都市住民が農山漁村地域に定住する際の問題点は何か。



※資料：平成26年6月農山漁村に関する世論調査（内閣府）
※それぞれ複数回答可、総回答者数700人

地方に仕事はないのか

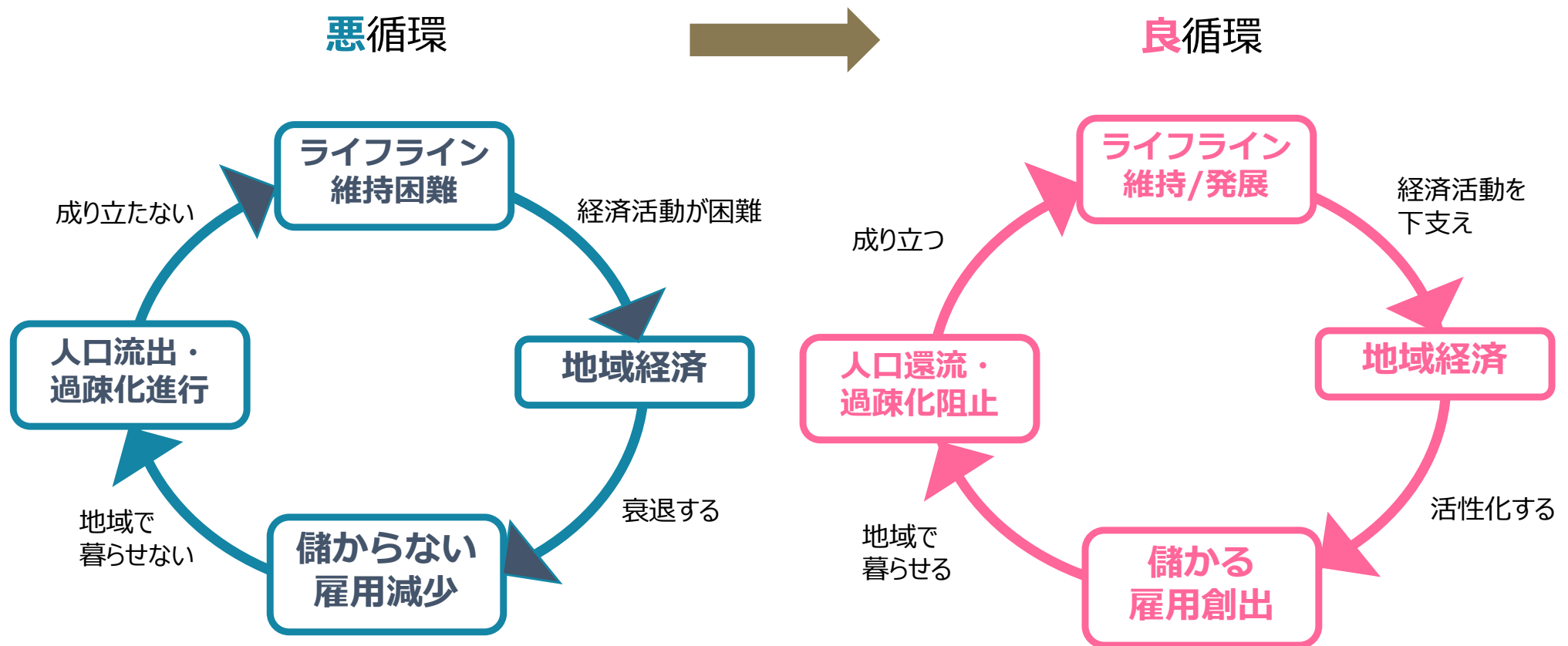
仕事はある。農林水産業が。



問題は魅力的な就業先ではないこと

問題は、地方の主要産業である農林水産業（及び食品関連産業）が、地方居住者の魅力的な就業先として機能していないこと。

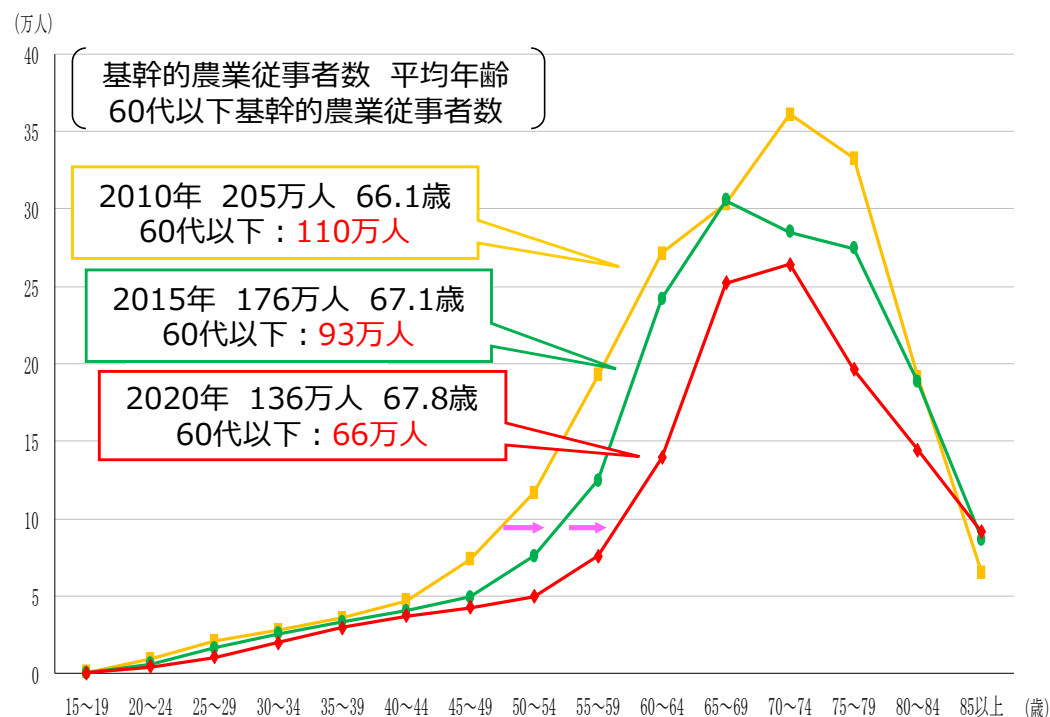
➡ 地方居住者の魅力的な就業先として機能させたい



農林水産業の課題：高齢化

平均年齢68.4歳。高齢化が主要国と比較しても突出。
持続的に産業として発展させるためには、若年層の参入が必要。

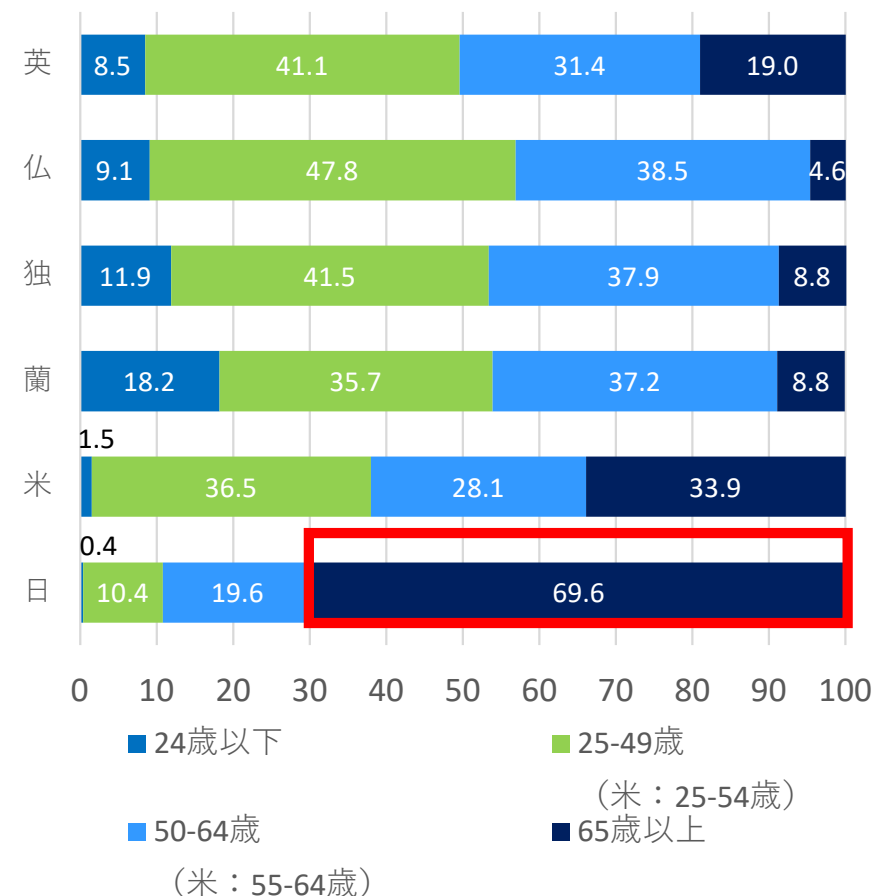
○基幹的農業従事者の年齢構成



資料：農林水産省「農林業センサス」(組替集計)

基幹的農業従事者とは、農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員)のうち、
ふだんの仕事として主に自営農業に従事している者

○各国の農業従事者の年齢構成

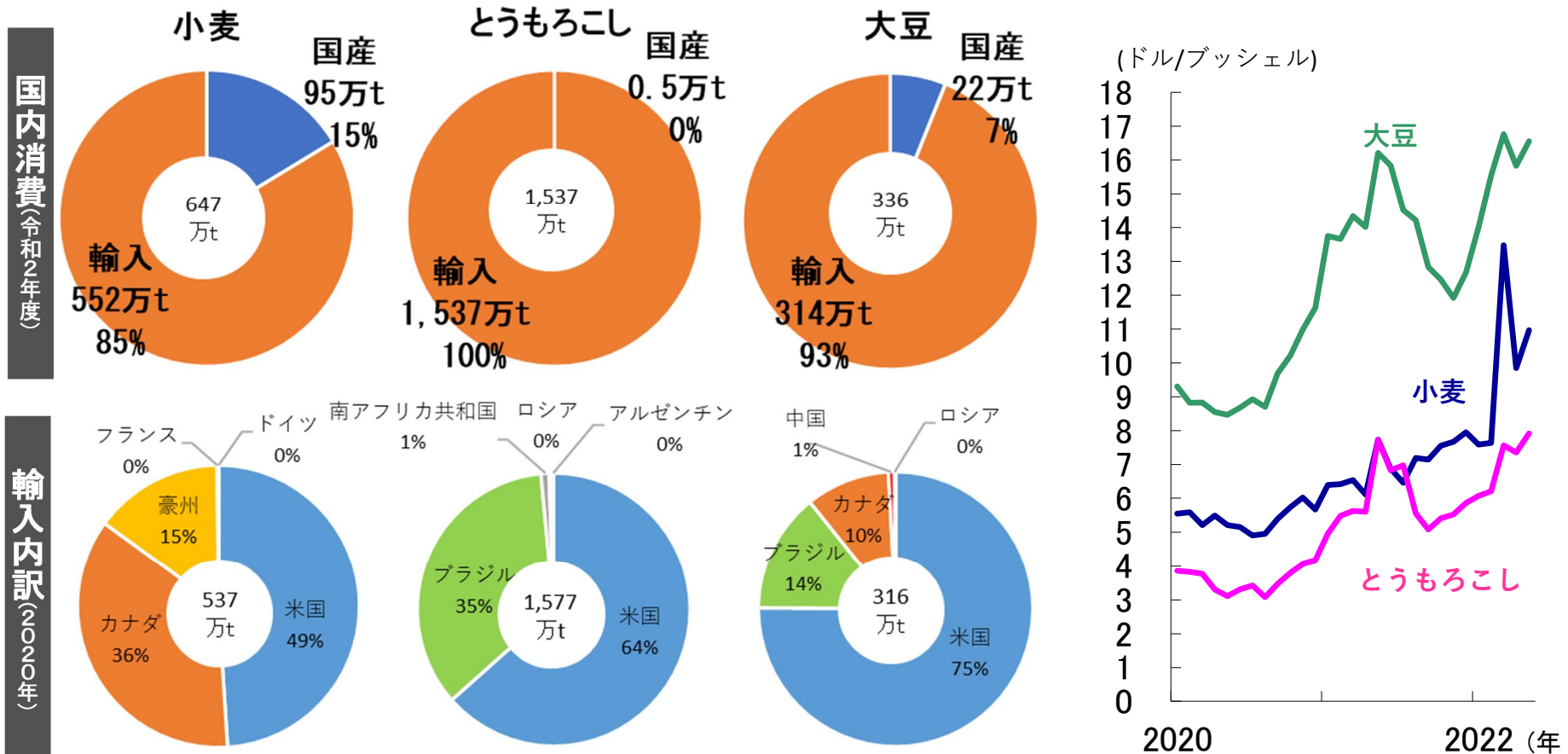


【資料】

英は、EUROSTAT (2019) : 農業に従事した世帯員
仏独蘭は、EUROSTAT (2020) : 農業に従事した世帯員
米は、米国農務省「2017年農業センサス」
: 農業に従事した世帯員
日は、農林水産省「農林業センサス」(令和2年)
: 基幹的農業従事者

日本の食の課題：輸入だけで大丈夫？

米以外の穀物は大きく**輸入に依存**。一方で、**気候変動**や**新興国の輸入需要の増加（食料争奪戦）**、**ウクライナ情勢**により、相場は**高騰**

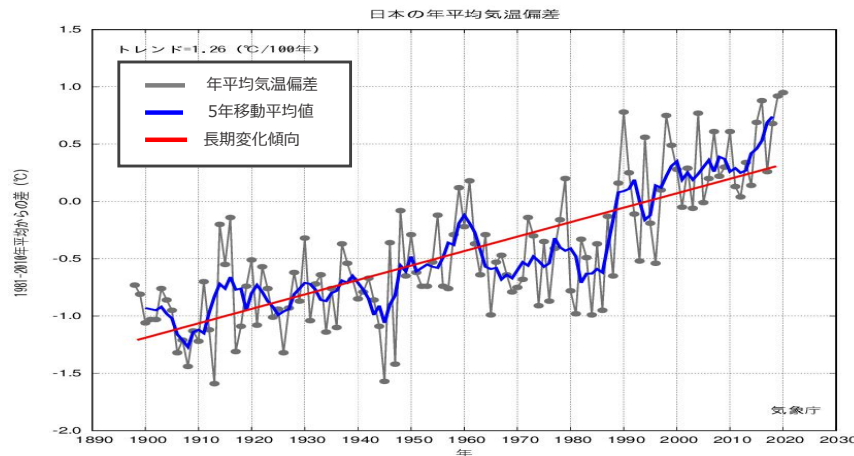


- 注1：主な用途は、小麦は食糧用、とうもろこしは飼料用、大豆は油糧用である。
- 注2：国内消費は、農林水産省「食料需給表」（令和2年度）、国産とうもろこし（飼料用のみ）の値は農林水産省調べ（令和2年度）。
輸入内訳は、財務省「貿易統計」（2020年）を基に農林水産省にて作成。
- 注3：小数点以下四捨五入のため、合計値が合わない場合がある。
- 注4：単純化のため輸出、在庫分は捨象し、国内消費＝国内生産＋輸入と仮定。
- 注5：国内消費における国産、輸入については、食料自給率算定方法に従い、加工品も原料換算して含めた（例：ビスケットに含まれる小麦分を小麦としてカウント）値としている一方、輸入内訳については、加工品の原料分は含まない値である。

日本の食の課題：地球環境の変化

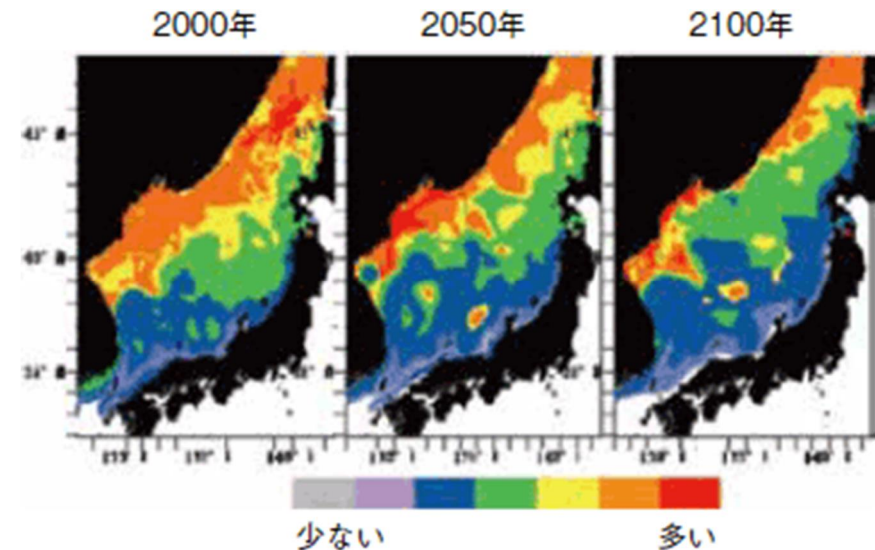
- 日本の年平均気温は、**100年あたり1.26℃**の割合で上昇。
2020年の日本の年平均気温は、統計を開始した1898年以降**最も高い値**。
- 農林水産業は気候変動の影響を受けやすく高温による**品質低下**などが発生。

■ 日本の年平均気温偏差の経年変化



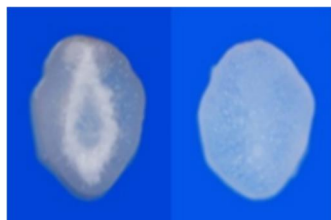
年平均気温は長期的に上昇しており、特に1990年以降、高温となる年が頻出

■ 温暖化による水温予測結果を用いたスルメイカの分布密度予測図



■ 農業分野への気候変動の影響

- ・ 水稲：高温による品質の低下
- ・ リンゴ：成熟期の着色不良・着色遅延



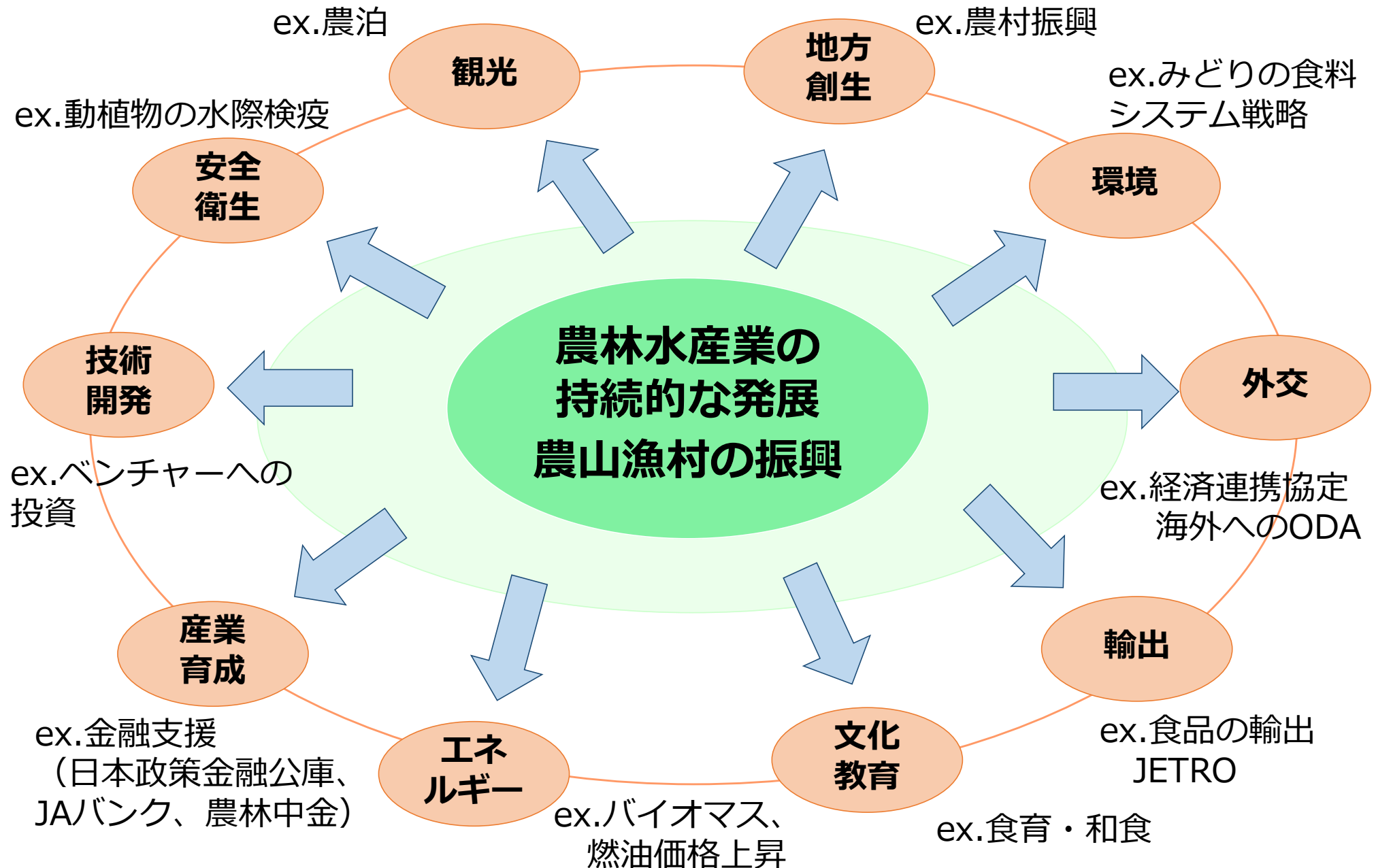
白未熟粒(左)と正常粒(右)の断面



農林水産省ビジョン・ステートメント

わたしたち農林水産省は、
いのち
生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を
未来の子どもたちに継承していくことを使命として、
常に国民の期待を正面から受けとめ
時代の変化を見通して政策を提案し、
その実現に向けて全力で行動します。

「食」と「環境」を未来に継承するために ～ 1次産業を核とした多様なフィールドと、豊富な政策ツール～



これから必要なこと：農林水産業の持続的な発展

「食」と「環境」を未来に繋ぐため

- ・ **食料安定供給の機能の向上**
 - ・ **農山漁村**（ひいては**日本全体**）の**活力維持・向上**
- を実現できるよう、**農林水産業の持続的な発展**が不可欠。

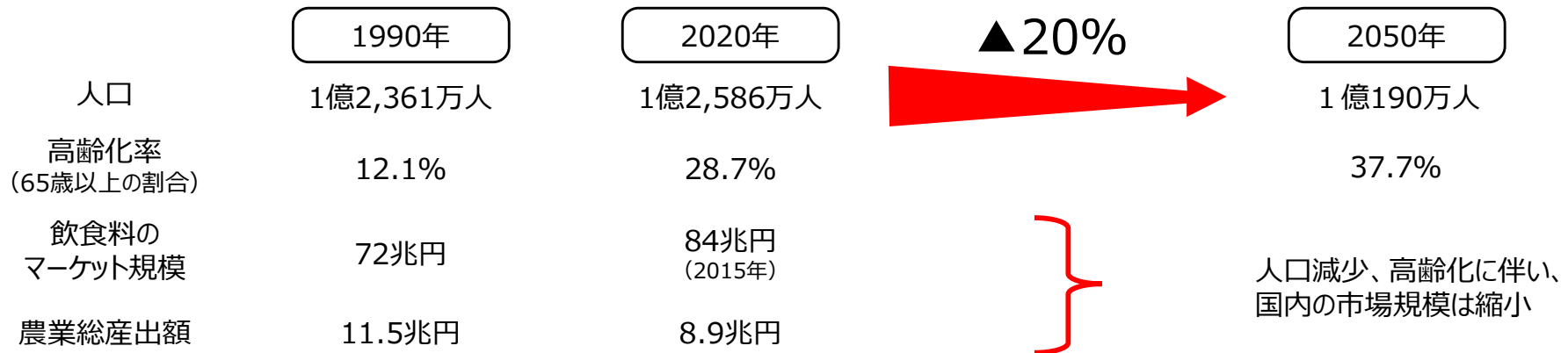
単純に言うと…

$$P \text{ (価格)} \times Q \text{ (量)} - C \text{ (コスト)} = R \text{ (収入)}$$



（前提として）国内市場の変化

- ・国内の市場規模は、人口減少や高齢化に伴い、縮小。
- ・急速な需要の減少が、日本の農林水産業に大きな影響を与えることは不可避。



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」
農林水産省「農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表（飲食費のフローを含む。）」、「生産農業所得統計」

○一人当たり食料支出額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合 計	100	103	105	108	112	116
生鮮食品	100	99	95	93	91	89
加工食品	100	105	110	117	124	132
外 食	100	104	106	108	110	113

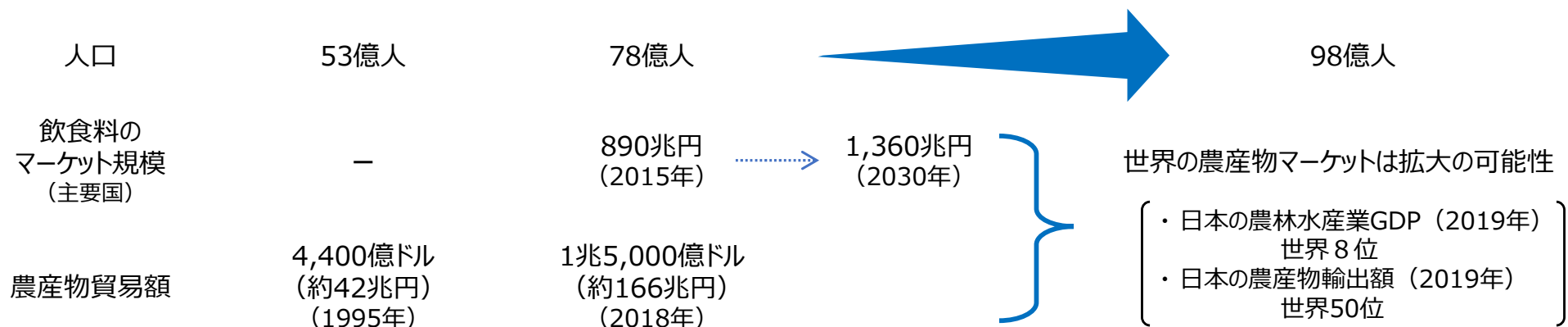
○食料支出総額（単位：％）

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
合 計	100	101	100	100	99	98
生鮮食品	100	97	91	85	80	75
加工食品	100	103	105	107	109	111
外 食	100	102	100	99	97	95

資料：農林水産政策研究所「我が国の食料消費の将来推計」（2019年版）

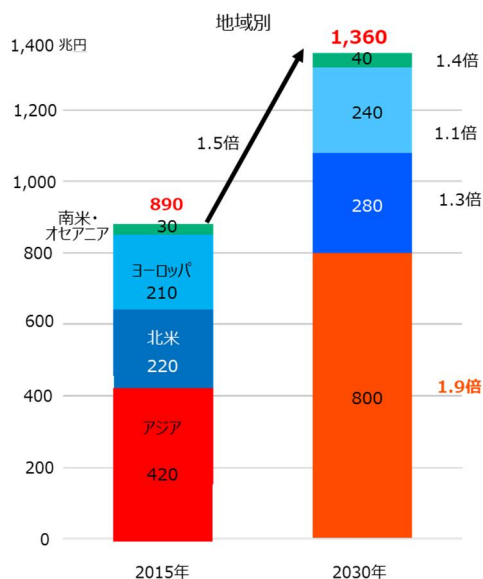
(前提として) 海外のマーケットを取り込んでいくことが重要。

- 世界の農産物マーケットは、人口の増加に伴い、拡大する可能性。
- 農林水産業の生産基盤を維持・強化し、農林水産物・食品の輸出促進により世界の食市場を獲得していくことが重要。



資料：国際連合「世界人口予測・2017年改訂版」、農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」、FAO「世界農産物市場白書（SOCO）：2020年報告」

○世界の飲食料市場規模



○国別・部門別の飲食料市場規模

単位：兆円

	2015年				2030年			
	生鮮品	加工品	外食	合計	生鮮品	加工品	外食	合計
アジア	221	146	57	424	409	292	93	794
北米	47	93	83	223	55	105	125	284
ヨーロッパ	53	97	60	211	62	105	75	242
南米・オセアニア	12	12	9	32	15	16	14	45
34か国・地域計	333	348	210	890	541	518	306	1,364

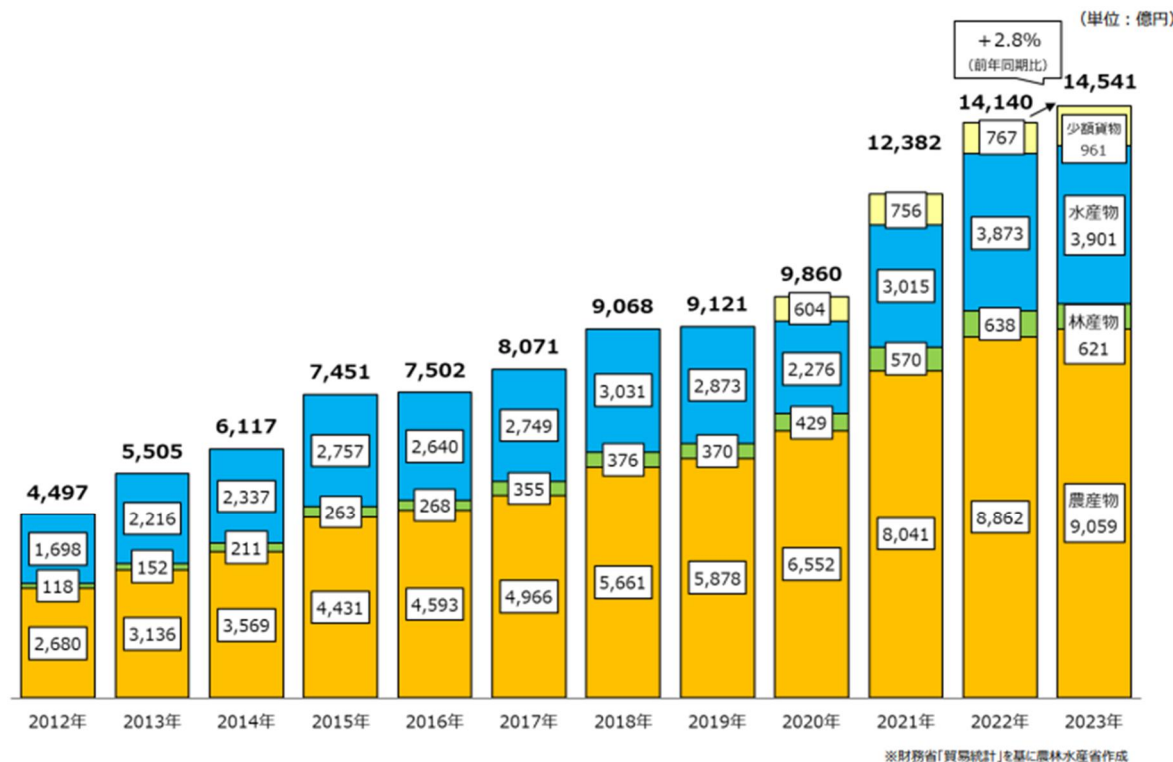
資料：農林水産政策研究所「世界の飲食料市場規模の推計」

※グラフの数値は四捨五入して表示してある。

農林水産業の持続的な発展：輸出促進

近年急速に増加。2021年 1 兆円目標を突破！
2030年輸出額 5 兆円の目標達成を目指す。

○農林水産物・食品の輸出額



○諸外国の農産物・食品の輸出割合

(億ドル)

国名	生産額 (農産物・ 食品製造 業)	輸出額 (農産物・ 加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。

資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

輸出のための取組

○ 我が国においても、品目団体の組織化や輸出先国における専門的・継続的な支援体制の強化に着手。

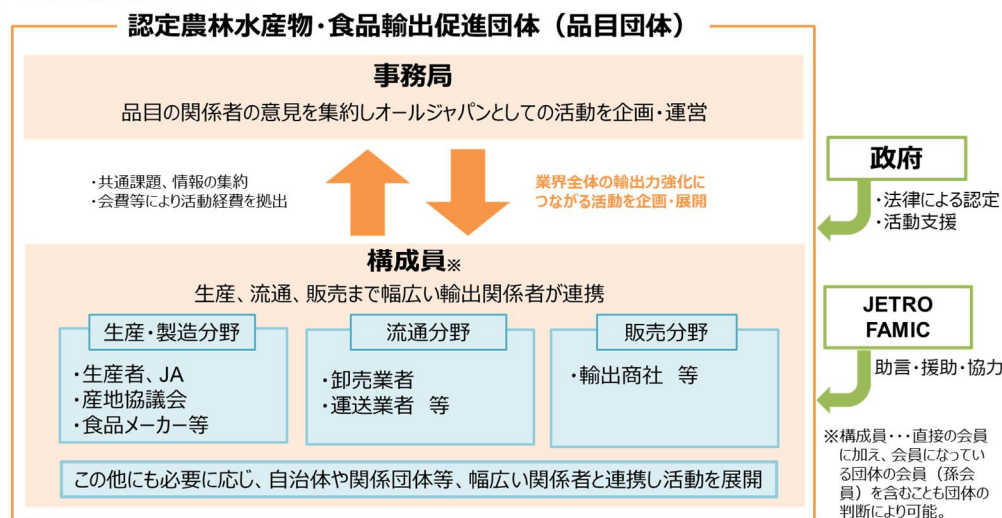
品目団体の組織化及びその取組の強化

輸出促進法による品目団体の認定制度を創設し、以下の取組を推進

- ① 輸出先国・地域の市場等の調査やジャパンブランドを活用した広報宣伝等の業界一体での需要開拓
- ② 輸出拡大に効果的な業界規格の策定
- ③ 会員等を対象とする任意のチェックオフなど自主財源の増加

- 他の先進国並の輸出促進の体制を構築
- 日本の強みがある品目をオールジャパンで販売する体制を整備

<認定団体の体制イメージ>



輸出先国・地域における専門的・継続的な支援体制の強化

- 主要な輸出先国・地域において、在外公館とJETRO海外事務所等を主な構成員とする輸出支援プラットフォームを設立
- 食品産業等に精通した人材をローカルスタッフとして速やかに雇用・確保し、輸出先国で輸出事業者を包括的・専門的・継続的に支援
- 輸出支援プラットフォーム設置都市
米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）、
EU（パリ）、
ベトナム（ホーチミン）、シンガポール（シンガポール）、
タイ（バンコク）、中国（上海、北京、広州、成都）、
香港（香港）、台湾（台北）

プラットフォーム（輸出先国・地域における公的支援）



支援

PF協議会

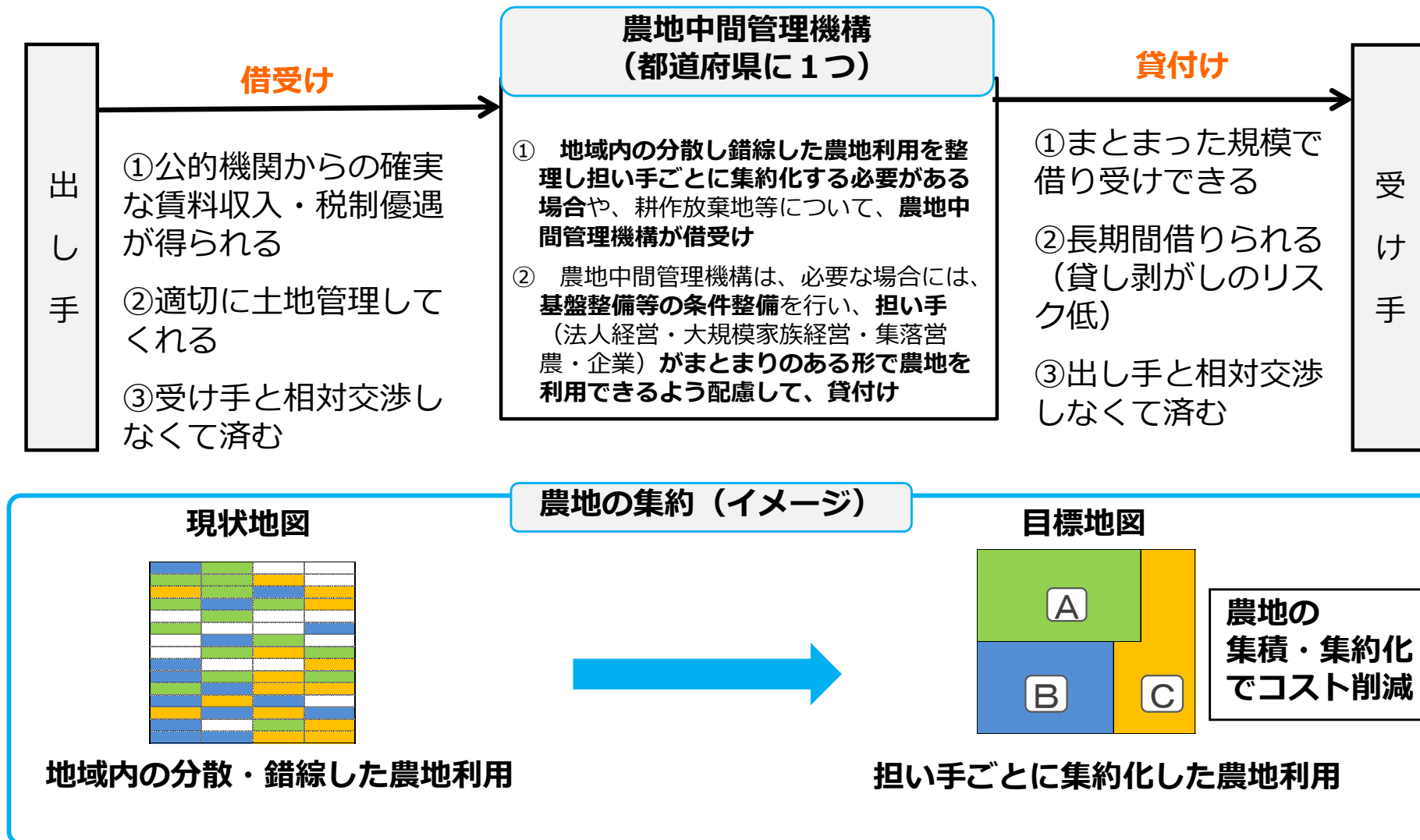
- ・現地法人
・現地食品事業者
・現地レストラン 等

我が国への還元

- ・国内品目団体へのトレンド情報提供
・新規規制情報を政府間協議に反映
・GFPと連携したPRイベントの開催

農林水産業の持続的な発展：農地集積による大規模化・コストダウン

- 離農者などは「**農地中間管理機構**」（**農地バンク**）に農地を預け、地域の話合いに基づき市町村が作成する「**目標地図**」に沿って、農地バンクが企業を含む「**担い手**」に一括で貸出し。

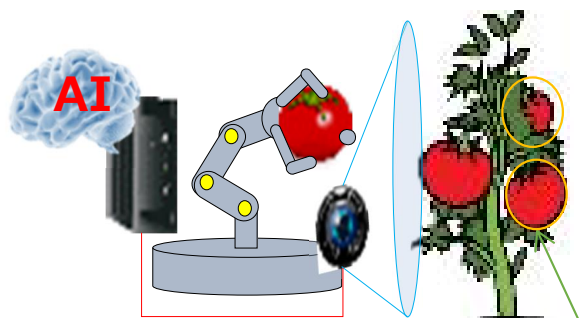


農林水産業の持続的な発展：テクノロジー活用

AIやロボット等を活用し、生産性の向上を図る



無人作業中の自動運転田植機



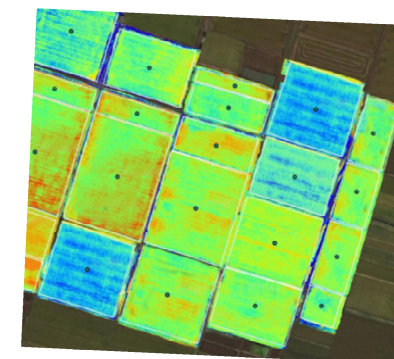
情報処理量を減らせるので速い

葉や茎をよけることを学習するので獲れる

AIを活用した野菜収穫ロボットの開発



水稻の葉色マップ例



薄 ← 葉色 → 濃
(不良 生育状況 良)

リモートセンシングによる農場の可視化

農林水産業の持続的な発展：みどりの食料システム戦略

みどりの食料システム戦略（概要）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画



「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大



「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

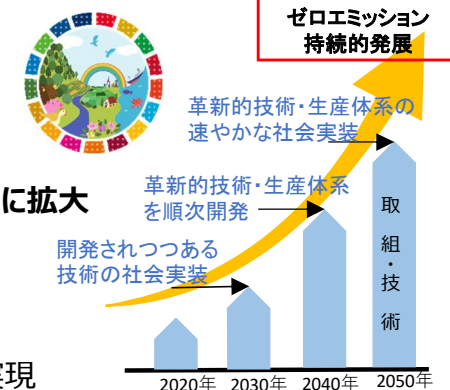
目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農業への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現

戦略的な取組方向

- 2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
- ※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
- ※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し。
地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。



期待される効果

経済

持続的な産業基盤の構築

- ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
- ・国産品の評価向上による輸出拡大
- ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

社会

国民の豊かな食生活 地域の雇用・所得増大

- ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
- ・地域資源を活かした地域経済循環
- ・多様な人々が共生する地域社会

環境

将来にわたり安心して 暮らせる地球環境の継承

- ・環境と調和した食料・農林水産業
- ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
- ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

農山漁村の振興：農山漁村発イノベーション

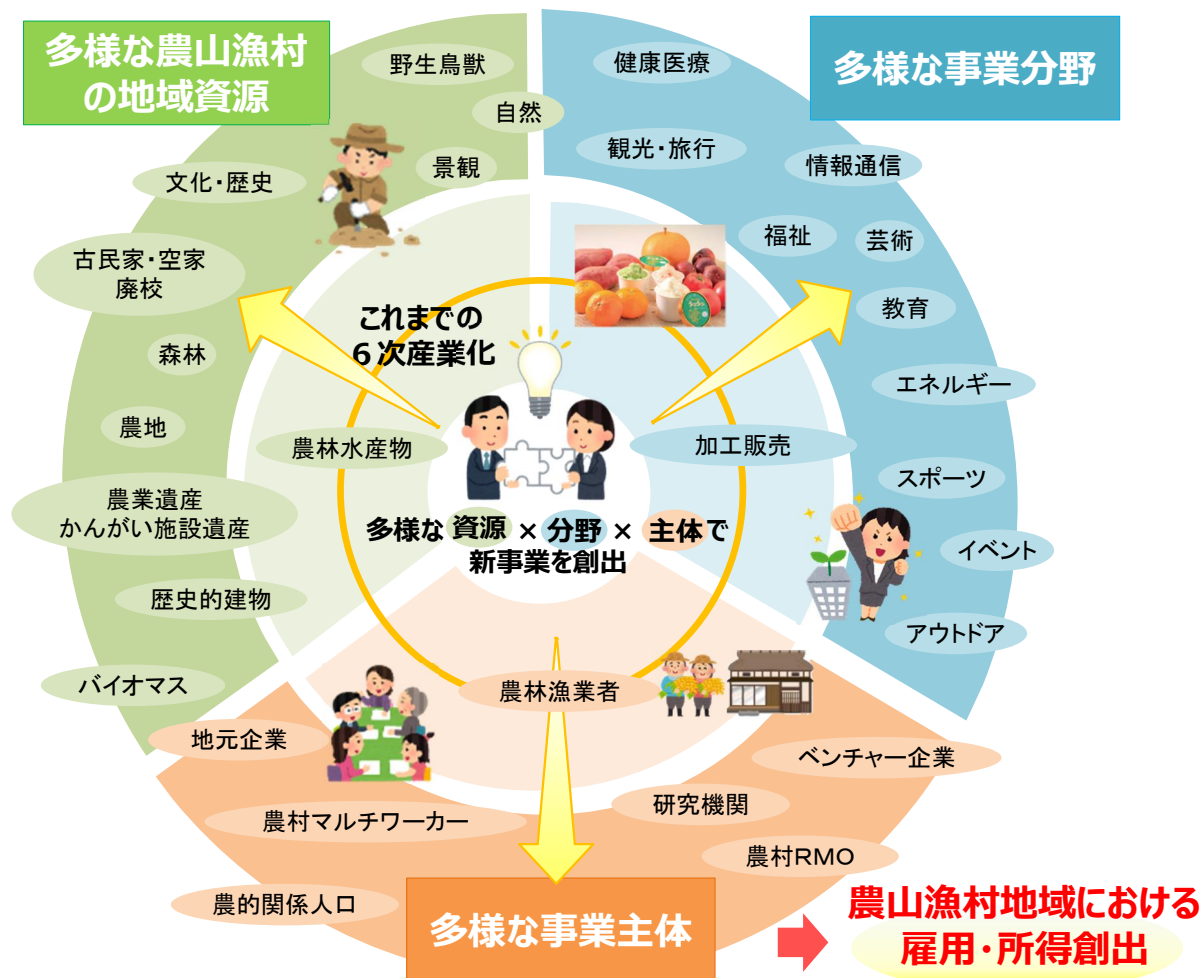
- 「農山漁村発イノベーション」とは、従来の6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値の創出を図る取組。

農山漁村発イノベーション

- 農山漁村のあらゆる地域資源をフル活用した取組を支援
- 他産業起点の取組など他分野との連携を一層促進

多様な農山漁村の地域資源

多様な事業分野



農山漁村発イノベーションの事例

<例1>

「農産物、景観」 × 「加工販売、観光・旅行」
× 「農林漁業者、地元企業」

株式会社ワカヤマファーム
(栃木県宇都宮市)

タケノコや栗の加工販売に加え、美しい竹林景観を活かして、映画のロケ地や観光商品として活用。



<例2>

「森林」 × 「スポーツ」 × 「ベンチャー企業」

株式会社フォレストリー
(栃木県壬生町)

森林をフィールドとしたサバイバルゲーム事業を行うとともに、参加料の一部を森林所有者にも還元。



<例3>

「農産物」 × 「加工販売、観光旅行、教育」
× 「農林漁業者、地元企業」

有限会社 シュシュ
(長崎県大村市)

6次産業化による農産加工品の製造・販売のほか、食育体験や収穫体験など豊富なメニューの取組を展開。





CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局選考採用職員紹介

農林水産省の組織

▼農林水産省は、本省（約5千人）と全国の各地方ブロック機関（約1万4千人）で構成され、総定員数は約1.9万人です。

（主な機関）

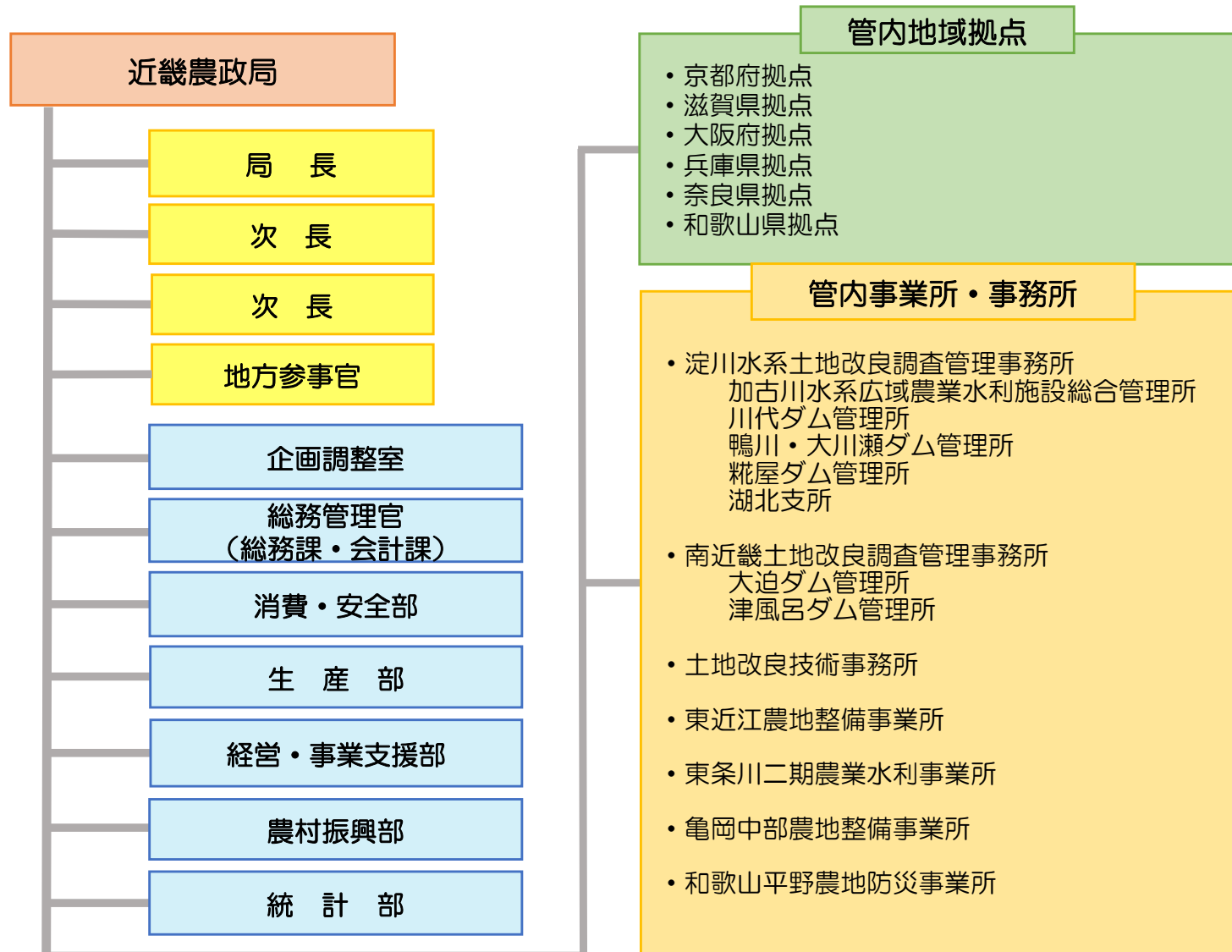
- ・本省…農林水産政策の企画立案
- ・**地方農政局…農業政策の実施・周知・把握**

※その他（森林管理局、植物防疫所、動物検疫所、漁業調整事務所）



近畿農政局の組織

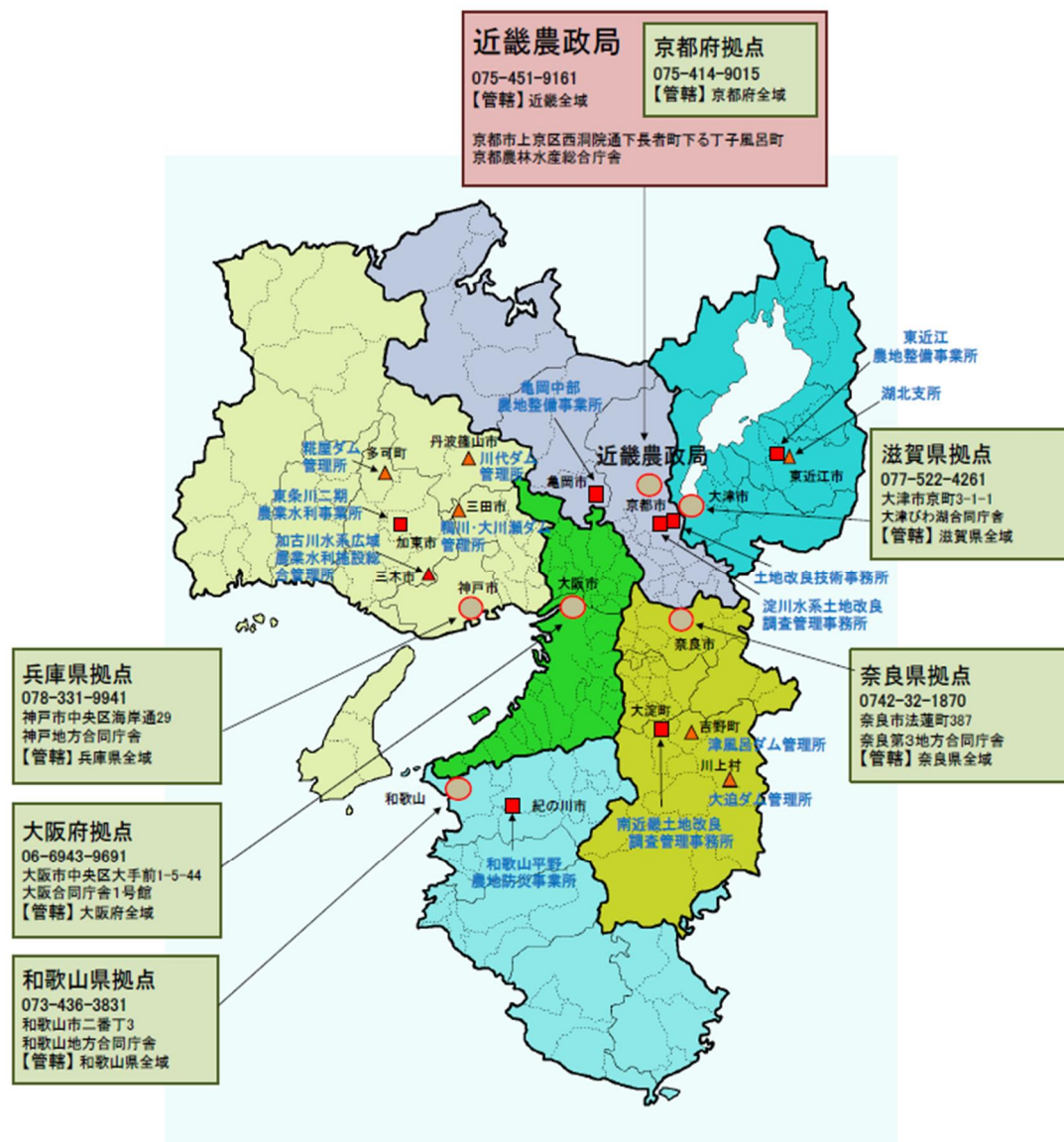
組 織 図



近畿農政局管内機関位置図

近畿農政局管内機関位置図

(令和7年4月1日現在)



採用区分の違い（事務系、技術系）

- ▼ 各種施策に関する**行政の実施業務・運営管理業務**を行う「**事務系**」と各種施策に関する事務に、**主として技術的な知識を活用して従事**する「**技術系**」のいずれかの区分での採用となります。
- ▼ 「**事務系**」と「**技術系**」の**重複応募はできません**。
応募していただく際に、どちらかを希望していただきます。
- ▼ 「**事務系**」は、**近畿農政局本局**又は**管内の地域拠点や国営事業（務）所**が主な配属先となりますが、「**技術系**」は、近畿農政局の他に、**農林水産本省や他の地方農政局**で勤務いただくことがあります。

採用区分の違い

採用区分	事務系	技術系
採用予定数	10名	2名
業務内容	各種施策に関する 行政の実施業務・運営管理業務	各種施策に関する事務に、 主として技術的な知識を活用して従事
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県）	原則、近畿農政局管内（2府4県）の他に、 農林水産本省、他の地方農政局への異動を予定
最初の配属先	本局	本局

採用系統の違い（①行政系、②農村振興行政系）

※事務系には2つの採用系統があります

- ▼ 行政の実施業務・運営管理業務を担当する**行政系**と
土地改良事業における用地・管理業務を担当する**農村振興行政系**の
いずれかの区分での採用となります。
- ▼ どちらの区分を受験するかは、第2次選考の面接試験の際お尋ねします。
（両方の受験も可）
- ▼ いずれのキャリアパスであっても、必ず本局以外の官署への異動があります。
**（ただし、近畿管内は一部の官署を除き官署間の交通の便が比較的良好いため、
官署をまたいだ異動となっても、転居されずに通勤で対応されている方も
多くいらっしゃいます。）**

採用系統の違い

採用系統	行政系	農村振興行政系
業務内容	行政の実施業務・運営管理業務	土地改良事業における 用地・管理業務中心
主な配属先	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 ・管内の地域拠点 ・管内の国営事業（務）所（庶務・経理等）	原則、近畿農政局管内（2府4県） ・近畿農政局本局 （主に 農村振興部の用地課、水利整備課等 ） ・管内の国営事業（務）所（ 用地等 ）中心
最初の配属先	本局	国営事業（務）所

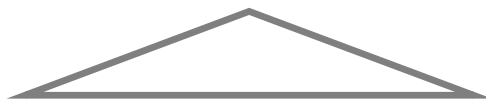
キャリアパス【一般職係長級（事務系）】

- ▼ 国家公務員採用一般職試験合格者（係長級）相当での採用となります。
- ▼ 近畿農政局管内（2府4県）での異動が基本となります。
本局のほか、府県拠点や事業所での勤務があります。
- ▼ 本人希望を踏まえつつ、おおむね2年程度での異動となります。
様々なポストを経験し、自分にあった分野のスペシャリストを目指していただきます。
- ▼ 定年年齢は現在62歳ですが、段階的に引き上げられ令和13年度に65歳となります。

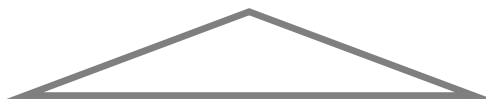
地方農政局の管理職



課長補佐



係長（今回の試験の募集対象）



係員

近畿農政局の配属例①

・食品表示監視等



(消費・安全部)

- ・食品表示等についての監視、疑義情報受付
立入検査など

・農地関係業務

(経営・事業支援部)

- ・担い手への農地集積・集約化の加速化
(府県の取組のフォローアップなど)

・輸出関係業務



(経営・事業支援部輸出促進課)

- ・農林水産物及び食品の輸出に関する相談
受付、情報提供
- ・輸出証明書の審査・発行
- ・地理的表示（GI）産品の登録に向けた
手続き

・農山漁村の活性化

(農村振興部)



- ・農山漁村が持つ豊かな地域資源を活用
した新事業や付加価値の創出、観光・
福祉・教育等と連携した取組等への支援
(農泊、農福連携)

・企画・広報業務



(企画調整室)

- ・局の窓口として、外部からの依頼等を
適切な部署に振り分け、局内の円滑な
業務遂行に貢献する。
- ・近畿農政局のHPの運営に関する事務
を行う。

・予算・会計業務



(会計課)

- ・事務費の所要額を精査し、本省を通じて
予算要求を行う。
- ・予算が、適切に執行されるようその執行
状況を管理する。
- ・会計検査院の行う検査に関する連絡調整
に関する事務を行う。

・人事・採用業務



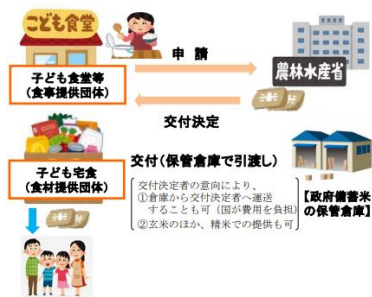
(総務課人事第1係)

- ・人事異動に伴う辞令を作成、農林水産省
本省や他の地方農政局との人事交流の連絡
等を行う。
- ・新規採用に向けた業務説明会の企画や、
開催に際しての連絡・調整業務、
官庁訪問等の採用事務を実施する。

近畿農政局の配属例②

米政策の推進等

(生産部)



- ・水田農業の高収益化の推進
(生産者と実需者のマッチングなど)
- ・子ども食堂・子ども宅食への政府備蓄米の無償交付
(令和6年9月1日より各地域拠点での申請受付開始)

食文化の発信

(経営・事業支援部 食品企業課)

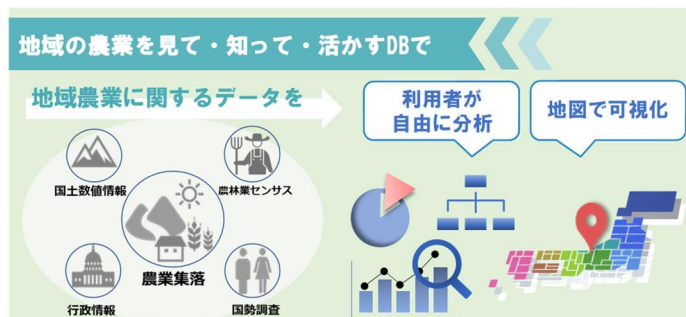


- ・近畿の特色ある食や食文化を発信するため、食・食文化プログラム(関西 食の「わ」プロジェクト)の取組推進

統計業務の推進

(統計部)

- ・「地域の農業を見て知って活かすDB」の地方公共団体等に対する利用普及(相談、技術的指導、問い合わせ対応)



現場と地域を結ぶ業務

(管内 地域拠点)



- ・府県・市町村・農業団体等への政策の説明、意見聴取、課題への対応
- ・6次産業化の推進、経営所得安定対策の実施、コメ政策や水田フル活用の推進等

庶務・経理業務

(管内国営事業(務)所 庶務課)



- ・国営事業に関する入札関係事務
- ・物品・役務等の調達
- ・所属職員に関する庶務関係事務

用地関係業務※

※主に農村振興行政系

(管内国営事業(務)所 用地課)



- ・国営事業に関する地元説明会の開催
- ・地権者の方への補償内容の説明
- ・土地評価・補償額の算定
- ・境界立会、補償物件の調査等

若手がどんどん行動しています

・ BUZZ MAFF

霞ヶ関 初！ 官僚系 YouTuber 誕生

【設立】 2020年1月7日

【チャンネル登録者】 15万人以上

農林水産省職員自らが省公式 YouTube チャンネルで YouTuber となるなど、担当業務にとらわれず、その人ならではの**スキル**や個性を活かして、我が国の**農林水産物の良さ**や**農林水産業、農山漁村の魅力**を発信するプロジェクト。



近畿農政局では、局内の**若手職員**を中心としたチーム「**となりの近畿**」を結成し、**近畿農業の魅力**を発信しています。



現場を知る

○ 農村・企業派遣研修

農業体験や現場の声を聴くことを通じて
農業・農村の現場を肌で感じることを目的
とします。

入省2年目の職員を対象に、近畿圏内各地
の農家の元に5日間派遣し、農業者の生活に
密着し、**農作業体験の充実**を図ります。



能力を高める

○ 実務能力向上研修

農林水産行政を担うに当たり、現場
の声を踏まえた施策を企画・推進する
ため、**管内各部の幹部による講演や、
外部講師を招いた講演**などを行って
います。

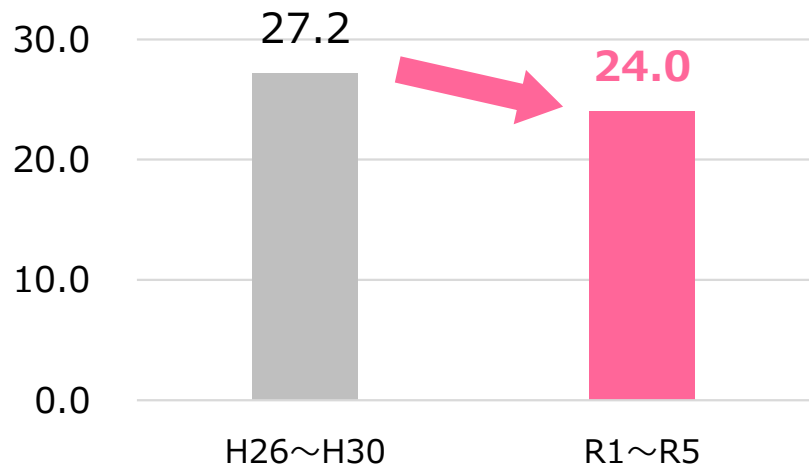
また、現場においてふさわしい礼儀
作法を身につけることを目的に、**ビジ
ネスマナー研修**も実施しています。



職員の働き方（働き方改革）

○ 超過勤務時間は減少傾向

（時間/月）



出典：農林水産省HPを基に作成

○ 職員一人当たりの超過勤務時間（一月あたり）

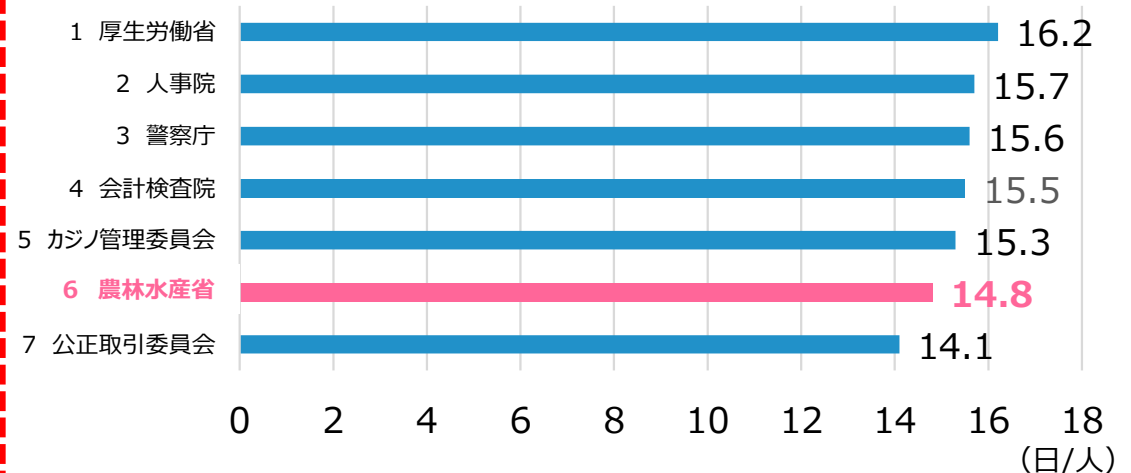
本省 （常勤職員）	22.0時間
地方機関 （常勤職員）	6.7時間
合 計	10.7時間

※令和5年における職員一人当たりの平均超過勤務時間数。
出典：農林水産省HP

○ 休暇取得

一人当たりの年次休暇取得日数は、**全省庁で6番目**

年次休暇取得日数（国家公務員（行政））



出典：内閣府男女共同参画局 女性活躍推進法「見える化」サイト R4年末数値

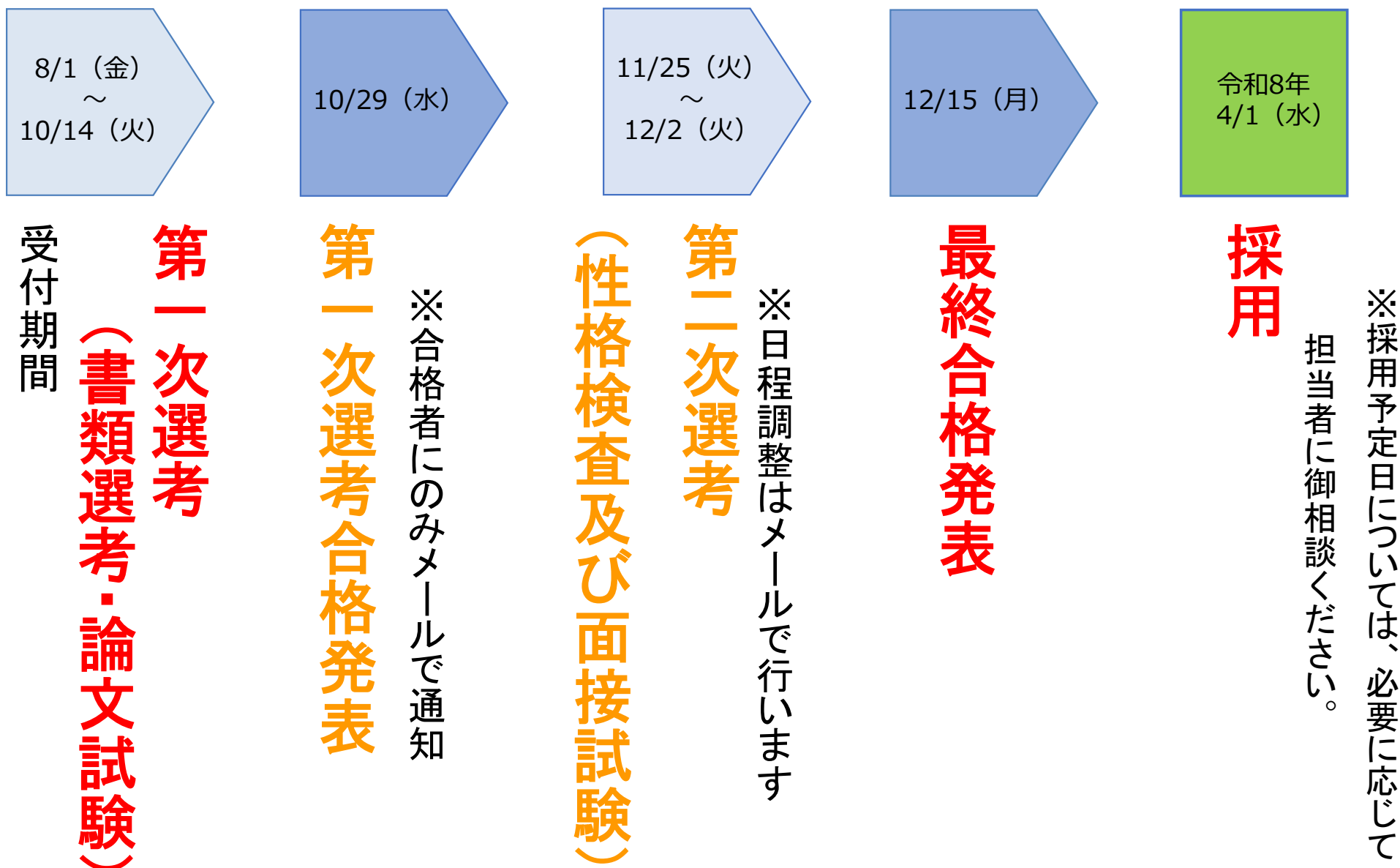
○ 多様な働き方～テレワーク等～

- ・テレワーク、フレックスタイム制度、早出遅出出勤など、ライフスタイルに合わせた勤務時間の選択が可能。
- ・令和2年度実績では、**テレワークの実施回数**が多い府省（本省）で農林水産省は**全省庁で3番目**（国家公務員テレワーク取組状況等調査より）。

働き方改革
キャラクター



採用スケジュール（令和7年度選考採用）



※詳細は近畿農政局HPの採用案内を御覧ください。

近畿農政局採用実績（一般職係長級（事務系））

近年は、採用時の配属先として、総務課や会計課での内部管理業務のほか、生産部や経営・事業支援部などの政策を実施するための業務でも活躍していただいています。

選考採用試験（一般職係長級（事務系））

採用年度	採用人数 (うち女性職員)	主な配属部署
令和3年度	10 (1)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、 農村振興部、統計部
令和4年度	12 (6)	総務課、会計課、消費・安全部、経営・事業支援部、 農村振興部、統計部
令和5年度	11 (3)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、経営・事業支援部、 農村振興部、京都府拠点、南近畿土地改良調査管理事務所、 和歌山平野農地防災事業所
令和6年度	6 (3)	生産部、経営・事業支援部、農村振興部
令和7年度	9 (3)	企画調整室、総務課、会計課、生産部、 経営・事業支援部、農村振興部、和歌山平野農地防災事業所

大きな転換期にある**社会課題**（**食・農林水産業**）に
幅広いフィールドで確かな**貢献**ができる。

転換期にある 農林水産業

- ・ 今、農林水産業は課題が山積している
- ・ ここから10年、20年で農林水産業は大きく変わる
- ・ いつの時代になっても、**食と環境を守る仕事は決してなくなる**ない

幅広いフィールド

- ・ 1次産業を中心とした多様なフィールド
- ・ 実際に世の中を動かせる豊富なツール
- ・ **ローカルからグローバルまで幅広い活躍の場がある**

確かな貢献

- ・ 産業（農林水産業、食品産業）を所管するからこそ、具体的な貢献ができる
- ・ 食という身近なものに関われる
- ・ ピンチの今だからこそ、**若手がチャレンジして変革を起こせる**



CONTENTS

本日お話しすること

01

国家公務員とは

02

日本の課題と
農林水産省のミッション

03

農林水産省の職場環境

04

近畿農政局選考採用職員紹介

経営・事業支援部農地政策推進課調整係長（令和4年度行政系採用）

（所属部署は令和4年度入省当時）



皆さんへのメッセージ

選考採用の方々からすれば、前職での経験より当然のことかと思われるかもしれませんが、自分一人で行っている業務はなく課として行っているのです、一人で抱え込まず、分からない時や不安な時は、遠慮せず周りに聞いたり相談してください。選考採用で採用されれば即戦力というイメージがあり、上司の業務の妨げになってはとの思いから相談して良いか迷われるかもしれませんが、決してそんなことはないのです、安心して遠慮せず上司の方々に相談するようにして下さい。

～専門用語も理解できると面白みを感じる～

Q1 今担当している業務は？

農地政策推進課という部署で、農林水産省が所有する農地等の土地を各府県と連携し、管理・貸付・売払等を行う為の補助金業務や貸付料や売払金等、相手側より徴収した金額が収められているか確認し、本省や会計検査院へ毎月報告する業務を主に行っています。

前職では、聞きなれない言葉や用語が多く、また似たような言葉や用語でも意味が異なり、理解するのに苦労しましたが、業務を通じて理解できた時は面白みを感じました。

仕事をする上で心がけていることは、基本的なことです、一人で抱え込まず、分からない時は積極的に周りに聞くこと、報告や提出期限を厳守すること、不安に感じたことは些細なことでも報告・連絡・相談を欠かさないことを心がけています。

～前職で感じた食や農業の課題により深く取り組みたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職で様々な業種と接する中で、食や農業をしている方々は他の業種と比べて、非常に多くの悩みを抱えていることを目の当たりにし、食や農業に関わっている方々の悩みを解決したいと思ったのがきっかけでした。前職でもそう言った悩みに対する解決が全く出来ないという訳ではありませんでしたが、取組める活動に限界があったことや活動を通じてより深く関わりたいと感じたのが志望した理由です。

皆さんが購入している様々な物の中で、特に口にすることは、海外産よりも国内産を求める方が多いと感じる一方で、国内の自給率は高くありません。皆さんが求めている物を安定して取得できるよう、農地集積・集約化等を行い、新規就農者が参入しやすい環境を整え、自給率増加に貢献できるような活動の一翼を担って行きたいと思っています。

～質問しやすく、安心して業務に取り組める環境～

Q3 職場環境について

分からないことがあった際、上司に相談すると気さくにに応じて下さり、聞きやすい雰囲気も作られているので相談しにくいと言ったことはなく、安心して業務に取り組める環境です。

週に2日、定時に退庁する日があり、自分の業務の状況に応じて残業するか決めることができ、前職より残業時間が減った分、自分の時間に費やせるようになりました。

休暇は積極的に取るように促進されており、連休の間に休暇を取得し、大型連休とすることもでき、非常に休暇を取りやすい環境です。



（令和4年度時点）

農村振興部都市農村交流課地産地消推進係長（令和5年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

選考試験を考えておられる方は、限られた時間の中での、活動となると思いますが、説明会や企業研究など、なるべく広く情報を取り入れ、色々と行動を起こしてチャレンジされるのをお勧めします。

年齢制限等もある場合もあるので、期間を決めて、その中で精一杯ベストを尽くし、自分の今までの経験に自信を持って、想いの丈を真っ直ぐに伝えていただくのが、良いかと思います。悔いを残さないように頑張ってください。

～現場の方々の想いを支援できる仕事～

Q1 今担当している業務は？

現在は、都市農村交流課という部署で、各府県と連携し、地域活性化のための活動計画づくりや支援・補助を行うための補助金手続き等、また新たな価値を創出する農林漁業者の取組等を支援しています。要綱・要領の把握や、施策の理解等難しいものも多いですが、不安を感じたり、分からない時は積極的に周りに聞き、先輩・上司・関係者との密なコミュニケーションを心がけて、報告・連絡・相談を大切にして業務に取り組んでいます。

他にも、事業者の方たちとも直にお会いし、直接お話を聞ける機会も多く、情熱を持った様々な取組や事業への想いを共感することができて、非常に勉強になっております。また、そういった現場の方々の想いを支援していくという初心を忘れずに、業務に取り組んでいきたいと思っています。

～地域資源を活用し、地域の活性化に取り組みたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職の旅行会社に勤めていた際に、地域の行政の方と連携して、町興しなどの地域活性化事業に取り組んだ経験がありました。近畿農政局の説明会に参加した際に地域資源を活用し、地域の事業者を支援し、地域の活性化に取り組まれていると知り、ここで貢献したいと思い、志望いたしました。

常に現場の人たちの立場に立ち、常に現場の人たちの想いを汲みながら、もっと就農者が取り組みやすく、働きやすい環境となるべくサポートし、地域活性の一翼を担っていくという初心を常に忘れずに、常にベストを尽くして業務に取り組んでいきたいと思っています。

～相談しやすい雰囲気、サポート体制の充実～

Q3 職場環境について

分からない時や行き詰まった時は、上司や先輩方に聞きやすい雰囲気があり、業務の対応についても気軽に相談できる為、安心して業務に取り組める環境です。

また、研修の機会も多く設けていただき、基礎的な知識から就業規則等まで幅広く丁寧に教えていただけますし、同期との接点も多く作っていただけますので、サポート体制も充実していると思います。休暇に関しても積極的に取るように推進されているので、プライベートの時間も取得しやすい環境だと思います。



（令和5年度時点）

南近畿土地改良調査管理事務所財産管理課財産管理係長

(令和5年度農村振興行政系採用)

(所属部署は令和5年度入省当時)



皆さんへのメッセージ

皆さんには、それぞれの強みや得意なこと、信念や実現したい夢などがあると思います。そんな想いや熱意をご自身の言葉で伝えることが、とても大切だと思います。

私には、1歳の子供がいるため、計画的に年次休暇を取得し、テレワークやフレックスタイムも活用して、仕事と子育てに充実した日々を過ごしていますので、農林水産省に転職して本当に良かったです。

農林水産省の職員として、皆さんと一緒に働ける日を心からお待ちしております。

～住民の安全のために活動する責任のある仕事～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、近畿農政局の出先機関である南近畿土地改良調査管理事務所の財産管理課に在籍しております。

当事務所では、国営事業を実施するための調査計画・全体実施設計、国営事業で造成した施設の長寿命化を図るための調査・検討を行っており、また、国営十津川紀の川土地改良事業で建設した大迫ダム、津風呂ダム及び下淵頭首工の直轄管理も行っております。

このため、大雨の際は、ダムから放流を行う必要があり、放流直前に下流河川への入川者や住民の安全のために警報車による警報活動も行っており、私も初めて参加した時は少し緊張しましたが、非常に責任のある仕事だと思いました。

現在、私は、有期限（50年等）で設定されている地下に埋設した農業用水路の地上権の期間更新に向けて、登記簿の名義変更及び地目変更の有無、地籍調査の実施等の調査に携わっております。

～暮らしに欠かせない「食」をつくる農業者を支援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、私たちの暮らしに欠かせない「食」をつくる農業者を支援したいという想いがあったからです。

入省前のオンライン業務説明会では、和やかな雰囲気の中で、近畿農政局の業務内容や役割などを知りました。質疑応答でも丁寧に回答していただき、職員の方が、公務員の仕事に誇りと熱意をもって業務をされていることに魅力を感じたのも志望動機の一つでした。

将来は、農林水産業の課題である食料自給率の低下を改善するために、農産物の生産基盤の強化・消費拡大の推進や、若い方の新規就農の促進にも携わりたいと思います。

～研修制度が充実していて、周りに聞きやすい～

Q3 職場環境について

職場環境は、業務説明会で聞いた「研修制度が充実していて、周りの方に聞きやすい環境」という内容通りでした。

私は、民間企業からの転職で、すぐに業務を覚えられかが不安でしたが、分からないことを上司や同僚の方々から丁寧に教わっており、安心して業務に励んでおります。

また、農政局主催のOJT研修や職場のOJT研修も多く、わかりやすく丁寧に教えていただけるので、とてもありがたいです。



(令和5年度時点)

経営・事業支援部食品企業課連携係長（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は入省前に説明会のほか、近畿農政局主催の「和食・食文化シンポジウム」や「食育セミナー」などに参加し、入省後に取り組みたい仕事のイメージが明確になりました。面接でもその気持ちを伝えることができましたので、各部開催のセミナーに参加するのも良いかと思います。

また、私には3人の子どもがおりますので、農林水産省のビジョンステートメントである「生命を支える「食」と安心して暮らせる「環境」を未来の子どもたちに継承していく」仕事に携わることができて、母としてもやりがいがあり、入省して良かったと感じております。

ぜひ農林水産省で、一緒に日本の未来の「食」を創りましょう！

～関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、食品企業課で「関西 食の「わ」プロジェクト」を担当しております。このプロジェクトでは、関西の農林水産業や食品産業の振興・次世代への継承を図るため、関西の食や食文化を国内外に発信する活動を募集しています。私は、この募集に係る業務や、「関西 食の「わ」プロジェクト」として認定された活動を、HP、Instagram、メルマガ等で御紹介しており、関西の食や食文化の振興につながるよう心掛けながら奮励しております。

日々の業務では、多種多様な業界・世代の方々からお話を聞き知見を増やせる楽しさと、プロジェクトを推進していくやりがいを感じております。

～「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

「食」を通じて国民の食卓を支え、「食育」により国民の健康寿命延伸に貢献できる仕事に強い魅力を感じ、志望いたしました。

現在担当している「和食文化の保護・継承」は、健康食ともいわれる「和食」の普及を推進することで国民の長寿や健康維持にも役立つと考えております。

今後は、前職での商品開発や管理栄養士としての経験を活かして、現場から国民のニーズを収集し、消費者に寄り添った施策を行えるよう必要な判断力やスキルを身に付けていきたいです。

～幅広い政策課題に係る業務に対応できるよう、セミナーや研修制度が充実している～

Q3 職場環境について

職場は気さくで優しい方が多く、業務についても丁寧に教えてくださり、尊敬する上司や先輩にも恵まれ大変感謝しております。

また、農林水産省は「食」を中心とした産業政策・地域振興・インフラ・文化・外交等の幅広い政策分野を総合的に担っており、同じ課内でも多岐にわたる業務があるということを感じました。職員はこれらの幅広い政策課題に係る業務を通して国民の生活を支えており、この多分野の業務に対応できるよう、各種セミナーや研修制度も充実しています。

私も自己研鑽のため、積極的に参加しております。



経営・事業支援部輸出促進課輸出証明支援係長（令和6年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

私は、前職が別の職種のため、すべてが未経験に近い状態での入省となりましたが、自分の強みや日本の農林水産業への思いなど、未経験でも貢献できる点を面接で伝えることが大事だと思います。また、近畿農政局は年齢層が高めな傾向ですので、ExcelやPCに少しでも詳しいと非常に重宝されると思います。

一緒に日本の農林水産業を盛り上げるお手伝いをしていけたらと思いますので、少しでも興味を持てば、苦手意識を持たず、是非挑戦してみてください。

～日本の農林水産物・食品の輸出をフォローアップする業務～

Q1 今担当している業務は？

現在、輸出促進課において、日本の農林水産物・食品の輸出目標である2025年に2兆円、2030年に5兆円を達成するため、近畿農政局管内の輸出に取り組んでいる、取り組みたい事業者へのフォローアップ業務を主に行っています。様々な事業者との意見交換や相談の場に立ち合わせていただき、少しでも力になれるように日々勉強しながら業務にあたっています。

まだまだ分からないことが多い状況ですが、苦手意識を持たず、何事も前向きに業務に取り組むようにしています。

～輸出入の現場で様々な悩みがあると痛感、より幅広く支援したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

近畿農政局を志望した理由は、前職で主に水産物の輸出入に携わっていた際、各事業者が様々な業務や手続きにおいて悩みを抱えていることを痛感し、より幅広くお手伝いをするのができないかと考えたことがきっかけです。

2、3年ごとに異動があるため、今後は輸出だけでなく、農林水産業に関わる業務を幅広く経験し、自分の強みを活かしながら、日本の農林水産業の発展に貢献していきたいです。

～新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境～

Q3 職場環境について

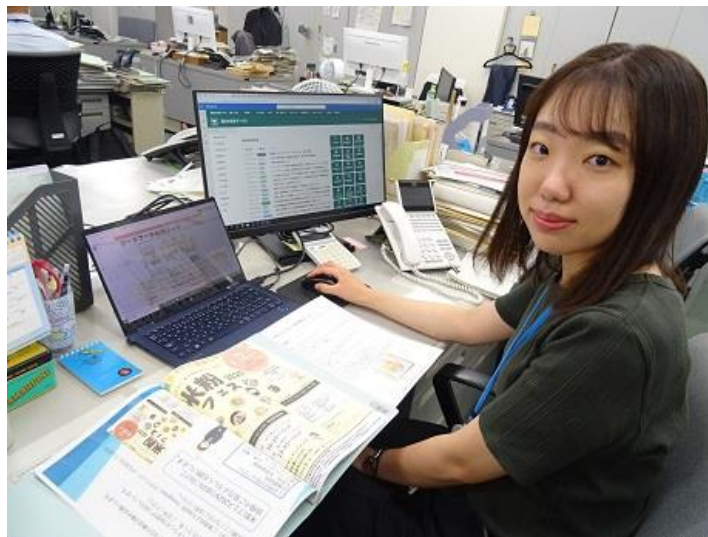
業務の進め方はもちろん、専門用語や文書の作成方法も、今までとは大きく異なり、社会人経験があっても戸惑うことが多いのですが、不明点や不安なことは、上司や同僚に気兼ねなく聞ける環境なので、非常にありがたく感じています。

また、私自身子どもが小さく、突発的に休暇が必要なこともあるのですが、課内で休暇を積極的に取るように周知されており、休暇は取得しやすい環境だと思います。

本省主催の研修に参加することもでき、新たな知識の習得をしたい方は積極的に活用できる環境だと思います。



生産部生産振興課流通改善係長（令和7年度行政系採用）



皆さんへのメッセージ

農林水産省と聞くとハードルが高く感じますが、実際は農林漁業や食は私たちの生活に一番身近な存在です。近畿の好きな風景を大切にしたい、この食文化を守りたい、そんな思いがあれば前職経験に関係なくアピールできると思います。私自身、一度は農業関係の仕事から離れたことが、やはり日本の食も農業も文化も大好きで、諦めきれず農林水産省に入省しました。皆さんと近畿の農業を盛り上げていけることを楽しみにしています。

～現場の声を大切にしながら、米穀の出荷管理や米粉推進に携わる業務～

Q1 今担当している業務は？

私は現在、生産振興課にて米穀の出荷、販売事業の届出管理や地域の子ども食堂等への政府備蓄米無償交付の申請受付業務及び近畿管内の米粉の推進業務を行っています。届出の管理や政府備蓄米無償交付の申請受付は、問い合わせや申請を正確に処理、受付することが求められるからこそ、自身の知識をしっかりと身に付けられています。近畿管内の米粉の推進業務では、「米粉フェス」というイベントの事務局運営を行ったり、「米粉商談会」という生産者、製粉会社、実需者等の事業マッチングを行ったりすることで、実際に消費者の意見や米粉関連事業者の思いを聞くことができる業務です。

それぞれのベクトルで事業者の方や消費者の方とお話ができるからこそ、近畿農政局での業務の面白みを実感しています。電話だけでなく、実際に多くの方にお会いすることができる部署だからこそ、現場の思いや声を大切に、それらに寄り添えるよう日々業務に励んでいます。

～現場の声、思いを行政に活かし、 近畿の農林漁業の発展に貢献したい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

私は元々農業関係組織で働いており、そこで見聞きした現場の声、思いをさらに行政に活かしていきたいと思い近畿農政局を志望しました。同じ農業分野でも立場が異なるからこそ、自らの知識、知見も広がり充実しています。今後は、前職で培った知識も活かしながら、近畿の農林漁業の発展に貢献していきたいと考えています。

同じ近畿農政局内でも多種多様な部署があり、2～3年ごとのジョブローテーションもあるため、幅広い視野で業務ができるよう意識していきたいです。

～育児と仕事の両立を最大限支援してくれる 職場環境～

Q3 職場環境について

私自身が一児の母で、育児・仕事を両立する所謂ワーママです。そんな私でも近畿農政局はとても働きやすい環境だと思います。上司も育児と仕事の両立を最大限支援してくれており、現在は保育園の送迎の都合で時差出勤をしながらフルタイムで働くことができます。

仕事のスケジュールリング次第で残業も少なく帰宅することができます。子どもとの時間を大切にしながら、仕事もこなすことができます。



和歌山平野農地防災事業所用地第二課補償第2係長（令和7年度農村振興行政系採用）



皆さんへのメッセージ

初めて転職する人は、給料、新しい職場での付き合い、即戦力になれるか等不安かと思いますが、悩まずにまずは選考試験に応募した方がいいです。合格してから考えましょう。

面接では前職の仕事内容、苦労したこと、成功談、失敗談、好きなこと、趣味特技、農業に対する自分の思いを言葉にできるようにして臨んでいただければと思います。

仕事を続けながらの転職活動は大変かと思いますが、面接の前日はしっかりと休んで元気な状態で臨んでください。不安にならずに転職活動を楽しみましょう。

～自然災害による農地被害を未然に防ぐ業務～

Q1 今担当している業務は？

和歌山平野農地防災事業所で和歌山市、岩出市、紀の川市の水路改修や排水機場の建設に向けて土地の買収や借地手続きを担当しています。昔の水路のままだと大雨の時に用水路から水があふれて和歌山の田畑の被害が起きてしまうため、10年に1度の大雨にも対応できるように進めています。また、工事に向けて事前に土地の調査、測量業務の発注も行います。借地期間中は土地のメンテナンスも行い、返還の際には地権者の要望に応えられるように努めています。

仕事をする上で事前準備が非常に大事なため、スケジュール管理に気を付けています。事業所全員で1つの業務に取り掛かっているため、1人で悩むことはありません。

～未来の子ども達に「安心安全な国産食材」を提供し、若い世代を中心に就農促進の手助けをしたい～

Q2 近畿農政局を志望した理由は？

前職で様々な問題解決をしていく中でもっと大きくより深い問題にチャレンジしたいと思い志望しました。今後の目標は2点あります。①未来の子ども達に「安心安全な国産食材」を提供したいです。自分たちは国内の新鮮な「食」を食べて育ちました。今後も継続的に提供できる環境づくりに貢献したいです。②若い世代を中心に働き手となり得る人の就農促進の手助けをしたいと考えてます。これらを達成するために、農業の基盤整備に携わっていきます。

～残業時間が少なく、休暇が取りやすいのでプライベートが充実できる～

Q3 職場環境について

年上年下関係なく和気あいあいとしています。和歌山平野農地防災事業所は、職場の真横に産直市場があるので、梅雨は梅、夏は桃、冬は柑橘類を買う人が多いです。1年を通して新鮮な野菜・果物が楽しめます。

月2回完全定時退庁日があります。上司が旗振りをしていまずので定時に帰りやすいです。また、残業時間が少なく、休暇が取りやすいので自分の時間に費やすことができプライベートが充実できるかと思います。



ご覧いただきありがとうございました！

- 近畿農政局の行政区分に関する情報は、近畿農政局HP、採用担当Instagramに掲載しています。

近畿農政局HP



採用担当Instagram



- お問い合わせ先（行政） 農林水産省近畿農政局総務課人事第1係
Mail: saiyou_kinki@maff.go.jp
Tel: 075-414-9032

ご不明なことがありましたら、お気軽にお問い合わせください。